

(様式第10)

熊大病医事第 97 号

令和 4 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人熊本大学

学長 小川 久雄

熊本大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
氏名	国立大学法人熊本大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

熊本大学病院

3 所在の場所

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号
電話(096)342-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	移植外科	3	形成外科	4	リハビリテーション科	5	病理診断科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50				795	845

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	293	369	513.9	看護補助者	54	診療エックス線技師	0	
歯科医師	6	25	24.8	理学療法士	18	臨床検査 臨床検査	臨床検査技師	74
薬剤師	69	0	69	作業療法士	8		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	6		その他	0
助産師	32	1	32.6	義肢装具士	0		あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	790	38	818.4	臨床工学士	21	医療社会事業従事者	4	
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	11	
歯科衛生士	2	0	2	歯科技工士	1	事務職員	283	
管理栄養士	9	0	9	診療放射線技師	46	その他の職員	87	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	91	眼科専門医	11
外科専門医	49	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	13	放射線科専門医	22
小児科専門医	25	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	14	整形外科専門医	25
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	23
産婦人科専門医	16	救急科専門医	5
		合計	329

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (馬場 秀夫) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

平成29年4月～平成30年3月まで、医療安全管理委員会委員
令和 3年4月～ 医療安全管理委員会委員長(熊本大学病院長)
令和 3年4月～ 医療安全対策に関するカンファレンス議長(熊本大学病院長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	650.73 人	21.19 人	671.92 人
1日当たり平均外来患者数	1366.32 人	91.55 人	1457.87 人
1日当たり平均調剤数		755.3	剤

必要医師数	149.66	人
必要歯科医師数	8	人
必要薬剤師数	23	人
必要(准)看護師数	387	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要					
			病床数	30床	心電計	有		
集中治療室	883 m ²	SR	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有		
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	246	m ²	病床数	16		
	[移動式の場合]	台数	21	台				
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	53			m ²		
	[共用室の場合]	共用する室名						
化学検査室	591 m ²	SR	(主な設備)	汎用自動分析装置、電解質測定装置、HbA1c分析装置				
細菌検査室	137 m ²	SR	(主な設備)	自動塗布装置、薬剤感受性装置、自動染色装置				
病理検査室	518 m ²	SR	(主な設備)	自動固定包埋装置、自動染色装置、凍結切片作成装置				
病理解剖室	187 m ²	SR	(主な設備)	病理解剖台、臓器写真撮影装置、オートクレーブ				
研究室	112 m ²	SR	(主な設備)	クリオスタット、遠心機、オートクレーブ				
講義室	1126 m ²	SR	室数	5	室	収容定員	828	人
図書室	2524 m ²	SR	室数	2	室	蔵書数	177000	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	93.6	%	逆紹介率	111.0	%	
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,684			人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		18,616			人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,013			人
	D: 初診の患者の数		16,774			人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
----	----	---------------	------	------	---------------

吉村 麻里子	佐賀大学医学部附属病院医療安全管理室	○	医療安全管理に関する見識を有する者	無	1
森高 啓喜	森高・吉見法律事務所		法律に関する見識を有する者	無	1
馬見塚 まゆみ	がんサロンネットワーク		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
熊本大学ホームページによる公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
19	56	球脊髄性筋萎縮症	23	黄色靱帯骨化症	23
88	57	筋萎縮性側索硬化症	67	後縦靱帯骨化症	67
14	58	脊髄性筋萎縮症	6	広範脊柱管狭窄症	6
1	59	原発性側索硬化症	35	特発性大腿骨頭壊死症	35
45	60	進行性核上性麻痺	21	下垂体性ADH分泌異常症	21
236	61	パーキンソン病	6	下垂体性TSH分泌亢進症	6
25	62	大脳皮質基底核変性症	49	下垂体性PRL分泌亢進症	49
1	63	ハンチントン病	13	クッシング病	13
2	64	シャルコー・マリー・トゥース病	2	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
219	65	重症筋無力症	54	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	54
159	66	多発性硬化症／視神経炎／多巣性運動ニューロパチー	274	下垂体前葉機能低下症	274
55	67	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	1	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
16	68	封入体筋炎	15	先天性副腎皮質酵素欠損症	15
2	69	クドウ・深瀬症候群	5	アジソン病	5
53	70	多系統萎縮症	96	サルコイドーシス	96
110	71	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	93	特発性間質性肺炎	93
19	72	ライソゾーム病	37	肺動脈性肺高血圧症	37
2	73	副腎白質ジストロフィー	19	慢性血栓性肺高血圧症	19
25	74	ミトコンドリア病	8	リンパ脈管筋腫症	8
100	75	もやもや病	20	網膜色素変性症	20
3	76	プリオン病	2	バッド・キアリ症候群	2
22	77	HTLV-1関連脊髄症	7	特発性門脈圧亢進症	7
230	78	全身性アミロイドーシス	10	原発性胆汁性肝硬変	10
3	79	遠位型ミオパチー	63	原発性硬化性胆管炎	63
70	80	神経線維腫症	27	自己免疫性肝炎	27
27	81	天疱瘡	119	クローン病	119
16	82	膿疱性乾癬(汎発型)	233	潰瘍性大腸炎	233
1	83	スティーヴンス・ジョンソン症候群	5	好酸球性消化管疾患	5
2	84	中毒性表皮壊死症	1	腸管神経節細胞減少症	1
31	85	高安動脈炎	10	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	10
3	86	巨細胞性動脈炎	36	筋ジストロフィー	36
28	87	結節性多発動脈炎	6	脊髄空洞症	6
54	88	顕微鏡的多発血管炎	1	脊髄髄膜瘤	1
12	89	多発血管炎性肉芽腫症	1	遺伝性ジストニア	1
20	90	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1	脳表ヘモジデリン沈着症	1
9	91	悪性関節リウマチ	2	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	2
4	92	バージャー病	1	皮下下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性 性脳動脈症	1
4	93	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性 白質脳症	1
435	94	全身性エリテマトーデス	13	前頭側頭葉変性症	13
256	95	皮膚筋炎／多発性筋炎	2	先天性無痛無汗症	2
331	96	全身性強皮症	1	アICALディ症候群	1
61	97	混合性結合組織病	1	神経細胞移動異常症	1
122	98	シェーグレン症候群	9	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	9
16	99	成人スチル病	3	レノックス・ガストー症候群	3
1	100	再発性多発軟骨炎	1	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
104	101	ベーチェット病	14	結節性硬化症	14
124	102	特発性拡張型心筋症	1	色素性乾皮症	1
75	103	肥大型心筋症	1	先天性魚鱗癬	1
38	104	再生不良性貧血	1	家族性良性慢性天疱瘡	1
2	105	自己免疫性溶血性貧血	27	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	27
9	106	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	特発性後天性全身性無汗症	3
46	107	特発性血小板減少性紫斑病	1	弾性線維性仮性黄色腫	1
2	108	原発性免疫不全症候群	1	マルファン症候群	1
77	109	IgA腎症	2	エーラス・ダンロス症候群	2
50	110	多発性嚢胞腎	6	ウィルソン病	6
		疾患名	疾患名	疾患名	患者数
1		ウェルナー症候群			
3		プラダー・ウィリ症候群			
1		単心室症			
1		ファロー四徴症			
1		両大血管右室起始症			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

116	急速進行性糸球体腎炎	5		
117	抗糸球体基底膜腎炎	4		
118	一次性ネフローゼ症候群	50		
119	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1		
120	紫斑病性腎炎	10		
121	先天性腎性尿崩症	1		
122	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1		
123	オスラー病	10		
124	閉塞性細気管支炎	2		
125	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	8		
126	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1		
127	フェニルケトン尿症	5		
128	プロピオン酸血症	1		
129	メチルマロン酸血症	2		
130	尿素サイクル異常症	3		
131	ポルフィリン症	2		
132	肝型糖原病	5		
133	家族性地中海熱	2		
134	慢性再発性多発性骨髄炎	1		
135	強直性脊椎炎	8		
136	軟骨無形成症	1		
137	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3		
138	後天性赤芽球癆	5		
139	エプスタイン症候群	2		
140	クローンカイト・カナダ症候群	1		
141	総排泄腔遺残	1		
142	胆道閉鎖症	8		
143	遺伝性膀胱炎	1		
144	IgG4関連疾患	9		
145	黄斑ジストロフィー	3		
146	好酸球性副鼻腔炎	19		
147	進行性白質脳症	2		
148	シトリン欠損症	1		
149	特発性多中心性キャッスルマン病	4		
150				
151				
152				
153				
154				
155				
156				
157				
158				
159				
160				
161				
162				
163				
164				
165				

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	149
合計患者数(人)	5125

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料1. 一般病棟 イ (7対1看護)	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料3. 精神病棟 ハ (13対1看護)	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク分娩管理加算
・診療録管理体制加算1	・後発医薬品使用体制加算2
・医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算)	・病棟薬剤業務実施加算1
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間100対1急性期看護補助体制加算)	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間看護体制加算)	・入退院支援加算2
・看護職員夜間12対1配置加算1	・入退院支援加算3
・看護補助加算2(50対1)(精神病棟)	・入院時支援加算
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・無菌治療室管理加算1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料2
・放射線治療病室管理加算1 治療用放射性同位元素による治療の場合	・特定集中治療室管理料3
・放射線治療病室管理加算2 密封小線源による治療の場合	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・緩和ケア診療加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・緩和ケア診療加算 個別栄養食事管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室、新生児集中治療室)
・精神科身体合併症管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2に係る加算(プレイルーム加算)
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料 無菌治療管理加算1
・医療安全対策加算1	・医療情報・システム基盤整備体制充実加算
・感染対策向上加算1	・看護職員処遇改善評価料
・感染対策向上加算1 指導強化加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科①)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料 注2の加算	・療養・就労両立支援指導料相談支援加算
・外来栄養食事指導料の注2	・がん治療連携計画策定料
・外来栄養食事指導料の注3	・肝炎インターフェロン治療計画料
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・糖尿病合併症管理料	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料イ	・検査・画像情報提供加算
・がん患者指導管理料ロ	・電子的診療情報評価料
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料2
・外来緩和ケア管理料	・精神科退院時共同指導料2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・在宅患者訪問看護・指導料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・二次性骨折予防継続管理料1	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・二次性骨折予防継続管理料3	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・一般不妊治療管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・生殖補助医療管理料1	・遺伝学的検査
・下肢創傷処置管理料	・染色体検査 注2 流産検体を用いた絨毛検査
・外来放射線照射診療料	・骨髄微小残存病変量測定
・外来腫瘍化学療法診療料1	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料 連携充実加算	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・ニコチン依存症管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科②)

施設基準の種類	施設基準の種類
・HPV核酸検出	・遠隔画像診断
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ポジトロン断層撮影
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・検体検査管理加算(I)	・CT撮影
・検体検査管理加算(IV)	・冠動脈CT撮影加算
・国際標準検査管理加算	・MRI撮影
・遺伝カウンセリング加算	・心臓MRI撮影加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・乳房MRI撮影加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・小児鎮静下MRI撮影加算
・時間内歩行試験	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・シャトルウォーキングテスト	・外来化学療法加算1
・胎児心エコー法	・無菌製剤処理料
・ヘッドアップティルト試験	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・人工臓器検査	・心大血管疾患リハビリテーション料の初期加算
・皮下連続式グルコース測定	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料の初期加算
・光トポグラフィー	・運動器リハビリテーション料(I)
・脳波検査判断料1	・運動器リハビリテーション料の初期加算
・神経学的検査	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・補聴器適合検査	・呼吸器リハビリテーション料の初期加算
・全視野精密網膜電図	・がん患者リハビリテーション料
・ロービジョン検査判断料	・認知症患者リハビリテーション料
・内服・点滴誘発試験	・集団コミュニケーション療法料
・センチネルリンパ節生検(片側)	・経頭蓋磁気刺激療法
・画像診断管理加算1	・通院・在宅精神療法 療養生活継続支援加算
・画像診断管理加算2	・認知療法・認知行動療法1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科③)

施設基準の種類	施設基準の種類
・精神科作業療法	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・角結膜悪性腫瘍切除術
・医療保護入院等診療料	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法))
・レーザー機器加算(医科)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・多血小板血漿処置	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1	・網膜再建術
・導入期加算2	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術
・透析液水質確保加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・慢性維持透析濾過加算	・人工中耳植込術
・人工膵臓療法	・人工内耳植込術
・血漿交換法 注2 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレンス療法	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・血漿交換法 注3 移植後抗体関連型拒絶反応治療	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・一酸化窒素吸入療法	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・センチネルリンパ節加算	・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・皮膚移植術(死体)	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術、骨悪性腫瘍手術	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・処理骨再建加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・内視鏡下脳腫瘍生検術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下脳腫瘍摘出術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、陰腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科④)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・生体部分肝移植術
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下弁置換術	・同種死体肝移植術
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・不整脈手術 4 左心耳閉鎖術 ロ 経カテーテル的手術によるもの	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・経皮的の中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・生体部分小腸移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・同種死体小腸移植術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術(心筋リードの場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いる場合又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・同種死体腎移植術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・生体腎移植術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・精巣内精子採取術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科⑤)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・歯科外来診療環境体制加算2
・子宮付属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)	・歯科診療特別対応連携加算
・医科点数表第2章第10部手術通則第16号に掲げる手術(胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。))	・医療機器安全管理料(歯科)
・体外式膜型人工肺管理料	・歯科治療時医療管理料
・輸血管管理料 I	・口腔細菌定量検査
・同種クリオプレシピテート作製術	・有床義歯咀嚼機能検査1の口
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・有床義歯咀嚼機能検査2の口
・麻酔管理料(I)	・咀嚼能力検査
・麻酔管理料(II)	・咬合圧検査
・放射線治療専任加算	・精密触覚機能検査
・外来放射線治療加算	・がん患者リハビリテーション料(歯科)
・高エネルギー放射線治療の1回線量増加加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・強度変調放射線治療(IMRT)の1回線量増加加算	・手術用顕微鏡加算
・高エネルギー放射線治療	・口腔粘膜処置
・強度変調放射線治療(IMRT)	・手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・手術時歯根面レーザー応用加算
・体外照射呼吸性移動対策加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・画像誘導密封小線源治療加算	・レーザー機器加算(歯科)
・定位放射線治療	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・保険医療機関間の連携による病理診断	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー(1歯につき)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科⑥)

施設基準の種類	施設基準の種類
・入院時食事療養費(1)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1 癌の生命予後規定因子CYLDの分子診断を突破口とした従来にない分子標的治療の確立	城野 博史	病院	2,400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
2 臨床現場での多重課題における意思決定要因の解明	松井 邦彦	病院	200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
3 胃癌間質の組織型別分子サブタイプに基づいた抗ストローマ治療戦略の開発	石本 崇胤	病院	4,750,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
4 革新的治療開発を目指した腸内細菌Fusobacteriumと腫瘍免疫の網羅的解析	馬場 祥史	病院	2,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
5 子宮がん自然発症マウスモデルを用いたがん発生を制御する上皮・間質の相互応答の解明	三上 芳喜	病院	300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
6 拘縮と廃用性筋力低下の問題を解決に導く次世代型療養支援体系の構築	掃本 誠治	病院	100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
7 左室収縮能保持性心不全の病態解明と新規治療法開発に向けたトランスレーショナル研究	松下 健一	病院	259,551	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
8 microRNA-21の敗血症に対する制御活性を用いた新たな診断・治療法の開発	江嶋 正志	病院	230,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
9 フェレット癒痕声帯線維芽細胞に対するプロスタグランジンE2の効果に関する研究	高村 晴香	病院	110,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
10 低血糖による糖尿病網膜症増悪におけるミトコンドリア由来活性酸素種の寄与解析	梶原 伸宏	病院	302,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
11 ドレブリン測定による肺癌診断法の開発と肺腺がんにおけるドレブリンの分子機能解明	猪山 慎治	病院	1,927,697	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
12 Mass cytometry によるPh-ALL微小残存病変の検出と診断への応用	徳永 賢治	病院	1,489,875	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
13 ER陽性HER2陰性乳癌におけるFGFR1下流のシグナル伝達経路への影響	富口 麻衣	病院	1,499,856	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
14 女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言：フィンランドとの比較研究	後藤 理英子	病院	241,360	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
15 ヘリコバクター・シネディの活性イオウ代謝を介した骨髄内潜伏感染機構の解明	末田 大輔	病院	595	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
16 直腸癌微小リンパ節転移検出による革新的直腸癌治療戦略の構築	宮本 裕士	病院	50,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会

16 件

小計 15,960,934円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
17	細胞外マトリックスの老化が解き明かすトランスサイレチンアミロイドーシスの真の病態	三隅 洋平	病院	1,557,917	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
18	新規尿中バイオマーカーコントロールピンの腎疾患診断・治療における有用性の検討	安達 政隆	病院	1,050,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
19	CREBとその転写共役因子CRTCによる動脈硬化発症・進展抑制機序の解析	井形 元維	病院	1,052,941	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
20	飲酒喫煙が食道癌診療に及ぼすリスクの包括的評価における平均赤血球容積の意義	吉田 直矢	病院	1,731,710	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
21	難治性消化器癌のHippo pathway破綻による癌幹細胞能獲得の機構解明	林 洋光	病院	1,081,314	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
22	消化管癌・GISTに対するGLUT1阻害剤を用いた革新的治療法の開発	澤山 浩	病院	2,095,858	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
23	悪性脳腫瘍におけるポリグルタミン化制御による新規治療法の開発	篠島 直樹	病院	700,324	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
24	T1ρ mapping MRI評価と3次元運動解析に基づく早期膝OA診断の確立	中村 英一	病院	1,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
25	Stat3を標的とした慢性炎症性関節炎および関節破壊制御	宮本 佳奈	病院	900,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
26	内分泌学的因子を包含した新たな子宮内膜癌の分類と新規治療戦略の確立	齋藤 文誉	病院	1,212,710	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
27	腫瘍随伴マクロファージの免疫学的動態の制御による卵巣癌に対する新規治療戦略の開発	本原 剛志	病院	1,370,403	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
28	遺伝子改変マウスを用いた頭頸部扁平上皮癌動物モデルの作成	伊勢 桃子	病院	802,024	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
29	大規模災害の避難者における健康被害の要因解明と新たな提言	笠岡 俊志	病院	2,166,760	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
30	インスリン抵抗性及び分泌低下に対するマクロファージ増殖の病態生理学的意義の検討	山田沙梨恵	病院	807,206	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
31	小児CTにおける深層学習画像再構成を用いた低被ばく撮影法の開発	永山 泰教	病院	1,279,115	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
32	二層検出器CTによる腎機能障害患者の低造影量プロトコル標準化へ向けた包括的研究	田口奈留美	病院	2,110,369	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
33	エビゲノム薬と環境因子の相互作用による肝癌治療の基礎的検討と臨床応用	長岡 克弥	病院	1,622,336	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
34	閉塞血管のない急性心筋梗塞(MINOCA)の診療実態及び病態の解明	石井正将	病院	1,750,318	(補)委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
35 冠動脈疾患におけるPD-1/PD-L1の役割の解明	藤末 昂一郎	病院	1,260,947	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
36 成人T細胞白血病リンパ腫における予後予測モデルおよび微小残存病変の評価法の開発	井上 明威	病院	2,027,354	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
37 肥満・糖尿病におけるmicroRNAによるインスリンシグナル制御とその意義	小野 薫	病院	1,200,378	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
38 舌癌におけるマクロファージマンノースレセプターの発現に関する研究	竹本 梨紗	病院	2,509,893	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
39 音声言語発達障害における特性理解・情報共有リーダーチャートの開発と有用性検討	野村 恵子	病院	43,432	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
40 医療行為の結果を質向上する多施設共同カイゼン研究デザインの確立に関する研究	近本 亮	病院	249,580	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
41 ゲノム編集RNA技術を用いた遺伝性難病治療を実現する非ウイルスベクターの開発	城野 博史	病院	100,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
42 AIを用いたCTテキスト解析による大腸癌肝転移に対する化学療法の治療効果予測	宮本 裕士	病院	1,266,960	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
43 地域における薬剤耐性克服を目指したワンヘルスアプローチによる耐性菌の分子疫学解	野坂 生郷	病院	500	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
44 FAPの新規疾患修飾療法を最大限活かすサロゲートマーカーと発症予兆検知指標の確立	増田 曜章	病院	144,536	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
45 仮性認知症としてのLate-onset AD/HDに関する臨床的研究	佐々木 博之	病院	663,905	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
46 逐次近似法再構成冠動脈C20K07988Tが臨床転帰に与える影響に関する多施設無作為化比較試験	尾田 済太郎	病院	60,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
47 心臓CTを用いた心筋組織性状評価:心アミロイドーシス診断ストラテジーの確立	尾田 済太郎	病院	704,980	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
48 神経型ゴーシェー病における新規の病態解析と治療薬の開発	城戸 淳	病院	946,147	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
49 ドミノ肝移植レシピエントの心機能評価を利用した心アミロイドーシス早期診断法の開発	宇宿 弘輝	病院	540,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
50 多発性嚢胞腎に対するセリンプロテアーゼを標的とした新規治療法の開発	柿添 豊	病院	738,462	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
51 endoglinを標的とした血管肉腫に対する新規治療法	梶原 一亨	病院	197,340	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
52 ITAMモチーフとStat1による破骨細胞制御	藤本 徹	病院	700,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
53	TGF-β2によるScx/Sox9共陽性細胞を標的とした腱板修復促進治療の開発	徳永 琢也	病院	1,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
54	緑内障における、ミトコンドリアを軸とした神経節細胞機能障害の新規生体イメージング	瀧原 祐史	病院	1,458,445	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
55	線維柱帯細胞のエクソソームを介したシユレム管内皮細胞への影響	高橋 枝里	病院	1,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
56	医学的見地と統計学的見地を融合させた最適な転倒転落アセスメントアルゴリズムの確立	山ノ内 祥訓	病院	400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
57	電子カルテ情報を利用した血液培養実施状況及び菌血症患者予後の網羅的解析	岡本 真一郎	病院	207,770	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
58	セリンプロテアーゼ制御によるマルチターゲット作用を活用した新規AKI治療法の確立	成田 勇樹	病院	1,150,195	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
59	肺癌に対する放射線療法と免疫療法の有効性の関連解析および最適な治療法の開発	坂田 晋也	病院	1,543,197	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
60	膵α細胞におけるHSP72によるグルカゴン分泌調節機構の解明	北野 さやか	病院	1,103,453	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
61	急性期脳卒中におけるてんかん原生の解明(多施設前向き観察研究)	松原 崇一郎	病院	2,366,092	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
62	4次元コーンビームCTを利用した体内線量分布計算システムの確立	下東 吉信	病院	511,744	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
63	SIRT7の腸管組織における機能解析および炎症性腸疾患との関連の探索	古田 陽輝	病院	2,091,100	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
64	慢性肝疾患におけるFPがもたらす肝発癌の分子機構の解明とその臨床応用	立山 雅邦	病院	2,400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
65	がん患者における静脈血栓塞栓症発症のリスク評価スコアの確立	末田 大輔	病院	1,797,022	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
66	慢性腎臓病における尿蛋白中セリンプロテアーゼを標的とした新規降圧療法の開発	中川 輝政	病院	1,500,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
67	アポトーシス制御に着目した急性腎障害の予防法および治療法の創出	森永 潤	病院	1,600,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
68	皮膚腫瘍免疫におけるインターフェロン誘導性遺伝子の解析とその制御法の開発	金丸 央	病院	1,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
69	βラクタム系薬の効果最大化が切り開く耐性菌の個別MICを活用した感染症治療新展開	尾田 一貴	病院	1,183,880	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
70	非B非C型肝細胞癌の発育進展に関わる新たな細菌を標的とした革新的治療法の開発	美馬 浩介	病院	3,039,556	(補)委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
71 CRISPRライブラリーを用いた変形性関節症の原因遺伝子の網羅的解析	久永 哲	病院	1,700,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
72 腱板修復術後のScx/Sox9共陽性細胞を介した修復機序の解明	井手尾 勝政	病院	1,400,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
73 腰部脊柱管狭窄症における黄色靭帯堆積アミロイドタンパクの研究	杉本 一樹	病院	1,750,453	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
74 卵巣癌におけるANGPTL2を標的とした新たな治療戦略の開発	竹下 優子	病院	1,266,140	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
75 放射線耐性口腔がんに対するIL-6シグナルを標的とした新規治療法の開発	有田 英生	病院	1,800,908	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
76 口腔癌におけるミトコンドリア動態が及ぼす抗癌剤耐性機構の解明と新規治療法の創出	川原 健太	病院	1,002,499	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
77 PARPを標的とした口腔癌の放射線抵抗性機構の解明と新規治療戦略の創出	坂田 純基	病院	1,604,288	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
78 口腔がんにおけるネオアンチゲンの同定と新規個別化がんワクチン療法の開発	平山真敏	病院	1,101,626	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
79 抗がん剤治療における産業・医療・保険に関するパレート効率性に関する実証研究	城野 博史	病院	453,184	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
80 メラノーマに対するOX40L遺伝子導入iPS細胞由来マクロファージ療法の開発	木村 俊寛	病院	1,869,989	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
81 ALDH2遺伝子変異型アレル保有者における心房細動再発についての検討	星山 禎	病院	2,096,861	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
82 HTLV-1によるサイトカインシグナル経路攪乱を介した発がんメカニズムの解析	樋口 悠介	病院	1,100,789	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
83 口腔がんにおけるm6A修飾を標的とした新規バイオマーカーと新規治療法の開発	平山 真弓	病院	1,343,552	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
84 革新的治療法開発を目指した膀胱癌のKRAS遺伝子変異subtypeの網羅的解析	近本 亮	病院	1,000,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
85 粒子状物質による急性心筋梗塞や院外心停止の発症および発症メカニズムの解明	小島 淳	病院	900,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
86 がん患者の抗腫瘍免疫のアクセセル機能を評価できる血液中バイオマーカー評価法の開発	大西 紘二	病院	831,091	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
87 ALアミロイドーシスにおける線溶系マーカーPAPの重要性とメカニズム解析	上野 志貴子	病院	1,200,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
88 肥満型心不全の分子機構の解明とその制御	松下 健一	病院	1,100,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
89 (独立)肥満型心不全の分子機構の解明とその制御	松下 健一	病院	1,500,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
90 手根管症候群手術症例を対象としたアミロイドーシスの早期発見に関する研究	高潮 征爾	病院	800,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
91 呼吸器疾患におけるXa因子阻害薬の出血リスク因子の解析	濱田 昌平	病院	1,600,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
92 浸透圧応答転写因子NFAT5による腎間質の微小環境と血圧の調節機序の検討	泉 裕一郎	病院	1,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
93 (独立)浸透圧応答転写因子NFAT5による腎間質の微小環境と血圧の調節機序の検討	泉 裕一郎	病院	1,400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
94 成人T細胞白血病におけるプロウイルス、ゲノム解析に関連する免疫学的研究	野坂 生郷	病院	1,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
95 骨髄異形成症候群に対する治療標的としてのSALL4の機能的解析	立津 央	病院	1,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
96 抗糖尿病効果を発揮する熱ストレス応答経路の多臓器間クロストーク解明	近藤 龍也	病院	1,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
97 胆管発生と胆汁うっ滞性障害肝の病態進展におけるSOX9関連シグナル経路の機能解析	吉井 大貴	病院	1,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
98 革新的治療法開発を目指した食道胃接合部腺癌の網羅的ゲノム解析	原田 和人	病院	800,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
99 網羅的遺伝子解析に基づいた膵癌に対する新規バイオマーカー及び分子標的治療の開発	中川 茂樹	病院	750,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
100 麻酔薬による脳虚血患者周術期の血液脳関門の機能変化の解明と治療応用	賀来 泰之	病院	610,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
101 HAO1とビタミンDシグナルを介した後縦靭帯骨化症の病態解明と治療法の開発	谷脇 琢也	病院	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
102 治療抵抗性口腔癌に対するm-tRNA修飾を標的とした新たな治療戦略の構築	高橋 望	病院	900,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
103 口腔細菌による代謝とエピゲノムのクロストークを介した口腔癌の治療抵抗性機序の解明	廣末 晃之	病院	1,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
104 全ゲノム関連解析による免疫チェックポイント阻害剤の有害事象予測因子の同定	宮本 英明	病院	1,600,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
105 遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスにおける脳アミロイド血管症の病態解析	野村 隼也	病院	600,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
106 非アルコール性脂肪肝炎に伴うサルコペニアの対策及び予後予測マーカーの開発	瀬戸山 博子	病院	1,900,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
107	強皮症関連肺高血圧症における病態細分化と治療反応群の特定についての検討	平川 今日子	病院	1,400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
108	左室リバーシモデリングを目標としたHFrEFの新規治療ガイド指標の確立	花谷 信介	病院	700,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
109	HIV-1タンパク質とRNAによるウイルス粒子形成メカニズムの解明	中村 朋文	病院	1,500,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
110	マクロファージ増殖抑制を介したGPR43による糖尿病心筋症発症抑制の検討	花谷 聡子	病院	900,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
111	革新的免疫治療開発を目指した食道扁平上皮癌の免疫回避機構解明と新規免疫治療の開発	間端 輔	病院	1,226,090	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
112	分泌型タンパク質Tsukushiの臨床応用を目指した研究	山田 竜也	病院	800,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
113	小細胞肺癌の幹細胞維持及び薬剤耐性化におけるNotch signalingの役割	本岡 大和	病院	1,600,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
114	がん糖代謝が制御する口腔扁平上皮癌のNrf2抗酸化経路を介した放射線耐性機序解明	松岡 祐一郎	病院	1,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
115	血行性がん転移における循環クラスタニッチの全貌解明	石本 崇胤	病院	2,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
116	口腔細菌由来の酪酸による口腔癌の発生や進展に関する機序の解明と新規治療法の創出	永尾 優果	病院	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
117	p97/VCPを標的とした新規多発性骨髄腫治療薬の開発に関する研究	西村 直	病院	900,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
118	脂質異常症に対するワクチン療法の開発	深水 大天	病院	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
119	メカノバイオロジーから迫る血中循環腫瘍細胞クラスターの特性の解明	前城 学	病院	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
120	スキルス胃がん間質ダイバーシティの解明と治療標的の創出	石本 崇胤	病院	2,400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
121	輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	米村 雄士	病院	1,000,000	(補)委 厚生労働省
122	プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	野村 恵子	病院	200,000	(補)委 厚生労働省
123	新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究	瀬戸山 博子	病院	300,000	(補)委 厚生労働省
124	肝炎総合対策の拡充への新たなアプローチに関する研究	瀬戸山 博子	病院	4,000,000	(補)委 厚生労働省

18 件

小計 23,626,090円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
125 循環器病に係る急性期から回復期・慢性期へのシームレスな医療提供体制の構築のための研究	宇宿 功市郎	病院	500,000	補 委 厚生労働省
126 災害時における医療機関の役割分担及び連携の検討に資する研究	笠岡 俊志	病院	679,509	補 委 厚生労働省
127 災害時における医療機関の役割分担及び連携の検討に資する研究	内藤 久貴	病院	1,000,000	補 委 厚生労働省
128 デュシエンヌ型筋ジストロフィーを対象とした新たな患者レジストリを構築するための研究	小篠 史郎	病院	169,231	補 委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
129 歩行可能なデュシエンヌ型筋ジストロフィーの自然歴研究	小篠 史郎	病院	11,429	補 委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
130 心アミロイドーシスの病勢指標としてのMRI T1マップ	尾田 済太郎	病院	1,000,000	補 委 出水市病院事業
131 再発又は難治性の成人T細胞白血病・リンパ腫に対するニボルマブの第II相医師主導治験	野坂 生郷	病院	615	補 委 国立大学法人鹿児島大学
132 心房細動を伴う脳梗塞における適切な直接口抗凝固薬開始時期の探求	中島 誠	病院	380,000	補 委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
133 進展型小細胞肺癌患者に対する初回治療カルボプラチン/エトポシド/アテゾリズマブ併用両方の実地診療における有効	坂田 晋也	病院	67,692	補 委 公立大学法人和歌山県立医科大学
134 野生型と薬剤耐性B型肝炎ウイルスに強力な活性を發揮する新規治療薬の研究・開発	満屋 裕明	病院	172,109,770	補 委 日本医療研究開発機構
135 HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	野坂 生郷	病院	1,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
136 適格患者の登録・治療、JCOGバイオバンク登録、高齢ホジキンリンパ腫の病態解析	野坂 生郷	病院	200,000	補 委 国立病院機構名古屋医療センター
137 ベッカー型筋ジストロフィーの自然歴研究の症例データ集積	小篠 史郎	病院	100,000	補 委 独立行政法人国立病院機構まつもと医療センター
138 特発性心筋症の診療に直結するエビデンス創出のためのAIを活用した自動病理診断システムの開発	高潮 征爾	病院	500,000	補 委 公立大学法人奈良県立医科大学
139 医師主導治験の実施(症例登録及びプロトコル遂行)	山口 宗影	病院	599,902	補 委 国立大学法人千葉大学
140 高齢者非小細胞肺癌患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究	佐伯 祥	病院	300,000	補 委 国立がん研究センター
141 成人T細胞白血病に対する移植後シクロフォスファミドを用いた非血縁者間末梢血幹細胞移植法の確立と移植後再発への対	野坂 生郷	病院	200,000	補 委 国立がん研究センター
142 シングルセル・マルチオミックス解析による線維化シグナルネットワークの全貌解明	石本 崇胤	病院	8,796,332	補 委 科学技術振興機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
143	B型肝炎再活性化に対する、費用対効果に優れた予防および治療法の開発	野坂 生郷	病院	500,000	補 委 国立国際医療研究センター
144	うつ病のグリア抗うつ薬受容体(LPA1)を基盤とした創薬・バイオマーカー研究	竹林 実	生命科学研究部	2,400,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
145	新規サーチュイン、Sirt7の動脈硬化進展に果たす役割と分子機序の解明	木村 優一	生命科学研究部	600,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
146	進行肺癌を対象とした腫瘍免疫抑制回避と能動免疫を併用するがん免疫療法の臨床研究	富田 雄介	生命科学研究部	300,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
147	難治性気道感染症における抗菌薬適正使用法の開発ー薬剤耐性菌の克服を目指して	右山 洋平	生命科学研究部	700,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
148	ヒトT細胞白血病ウイルス1型による発がん機構の解明と治療への展開	松岡 雅雄	生命科学研究部	3,900,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
149	組織修復時の好中球動態に及ぼす腸内細菌叢の役割	本田 正樹	生命科学研究部	3,900,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
150	非肝炎ウイルス性肝細胞癌におけるレトロトランスポゾン変化の解明	別府 透	生命科学研究部	1,000,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
151	プロテオミクスによる共存蛋白を標的とした遺伝性TTR型脳アミロイド血管症の解析	山下 太郎	生命科学研究部	1,100,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
152	各種治療後の肝細胞がん免疫微小環境の解析とiCI治療応用	近藤 泰輝	生命科学研究部	1,100,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
153	mtROSとNrf2を介した糖尿病大血管症発現機序解明と制御による治療への応用	久木留 大介	生命科学研究部	1,100,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
154	心筋虚血再灌流障害の克服を目指したSirt7の新たな機能解析	荒木 智	生命科学研究部	1,300,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
155	マクロファージの活性化制御に基づく小細胞肺癌の新規治療法の開発	入来 豊久	生命科学研究部	1,200,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
156	炎症メディエーターMRP8が腎炎進展に果たす役割の検討	栞原 孝成	生命科学研究部	1,100,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
157	糖尿病性腎症における糸球体内細胞間クロストークに作用する化合物の探索	水本 輝彦	生命科学研究部	1,100,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
158	webによる抗サイトカイン自己抗体測定受託システムを利用した稀少疾患解析	坂上 拓郎	生命科学研究部	1,000,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
159	バイオマーカーに沿ったスタチン併用大腸癌治療法の開発	石川 晋之	生命科学研究部	1,000,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
160	血管組織型バイオリジカルステントグラフトの開発	岡本 健	生命科学研究部	1,200,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
161	腱板断裂に対するヘッジホッグシグナルを介した修復促進治療の開発	唐杉 樹	生命科学研究部	1,600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
162	腫瘍内微小環境でのマクロファージCD163の機能解析と治療標的分子としての可能性	白石 大偉輔	生命科学研究部	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
163	原発性卵巣不全患者における減数分裂関連因子異常の探索	伊藤 史子	生命科学研究部	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
164	糖尿病の影響を受けた胎児の形態異常に関わる遺伝子のエピゲノム変異に関する研究	大場 隆	生命科学研究部	900,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
165	線維柱帯細胞とシレム管内皮細胞の相互作用による房水流出機構の解明	藤本 智和	生命科学研究部	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
166	静止期癌細胞モデルから迫る癌転移再発機構の解明	神力 悟	生命科学研究部	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
167	難治性てんかんの焦点診断におけるマルチパラメトリックMRIの開発	上谷 浩之	生命科学研究部	500,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
168	大腸鋸歯状病変の発癌過程における責任分子の同定と臨床応用	庄野 孝	生命科学研究部	400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
169	全身性強皮症の病態における皮膚微小血管内皮細胞由来microRNAの役割の検討	牧野 雄成	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
170	強皮症の線維化におけるmicroRNAの役割の検討	本多 教稔	生命科学研究部	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
171	脳梗塞急性期における炎症の関与	天達 俊博	生命科学研究部	1,200,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
172	脳血管周囲マクロファージが悪性神経膠腫の増殖・浸潤に関わる病態の解明	植川 颯	生命科学研究部	800,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
173	高解像度内圧計と管腔内インピーダンス測定による新たな嚥下機能評価法の開発	京免 卓海	生命科学研究部	400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
174	口腔癌の脂質代謝を介した悪性形質獲得機構の解明と新規治療標的の創出	中元 雅史	生命科学研究部	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
175	HTLV-1によるマルチモードウイルス発がん機序の解明	安永 純一郎	生命科学研究部	4,600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
176	医工連携によるミニチュアヒト肝臓創成とそのex vivo培養がもたらす革新的医療	山下 洋市	生命科学研究部	4,500,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
177	マルチオミクス統合解析を基にしたグリオーマ再発・悪性化機構解明と新規治療戦略創出	武笠 晃丈	生命科学研究部	4,500,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
178	胃癌腹膜播種における腫瘍不均一性および腫瘍微小環境を標的とした革新的治療法の開発	岩槻 政晃	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
179 自己抗体の病因的意義の解明に基づいた封入体筋炎の診断と治療法開発	山下 賢	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
180 分子結合技術を用いた新たな造影剤による革新的がんMRI画像化技術の開発	平井 俊範	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
181 濾紙血中のSMNタンパク測定による脊髄性筋萎縮症の新生児スクリーニング	中村 公俊	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
182 経カテーテル大動脈弁留置周術期の総合的血栓形成能評価法による至適抗血栓療法確立	海北 幸一	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
183 腎内慢性炎症と液性因子を軸とした腎障害進行メカニズム及びその制御に関する研究	向山 政志	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
184 急性骨髄性白血病におけるT細胞系転写因子ネットワークの解明	岩永 栄作	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
185 胆汁酸トランスポーターを介した糖代謝・脂質代謝制御機構の解明と治療への応用	石井 規夫	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
186 新規治療薬開発を目指した腫瘍微小環境におけるPD-L1発現の意義と機序解明	塚本 雅代	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
187 腫瘍間質細胞によって促進される胃癌腹膜播種進展メカニズムの解明	安田 忠仁	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
188 RNF43遺伝子異常によるWNTシグナルネットワークを介した膵発癌機構の解明	杉原 栄孝	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
189 膵癌におけるPD-L1/PD-1クロストークが癌細胞に与える影響	今井 克憲	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
190 膵癌におけるHippo pathwayと癌微小環境のinteractionの解明	東 孝暁	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
191 癌関連線維芽細胞におけるC5a受容体を標的とした膵癌幹細胞制御	新田 英利	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
192 エクソソーム内包microRNA/遺伝子制御による胃癌腹膜播種の原因究明	藏重 淳二	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
193 非小細胞肺癌縮小手術におけるCDCA1-OSNA法の確立	鈴木 実	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
194 $\alpha 2 \delta$ リガンドの作用機序の解明、特に上位中枢との関連	山本 達郎	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
195 腎細胞癌・尿路上皮癌における腫瘍内および全身性免疫環境の統合的解析	元島 崇信	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
196 リンパ節抗原提示細胞に着目した新たながん免疫療法の開発	矢津田 旬二	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

18 件

小計 19,100,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
197	環境物質の経卵管的な卵巣暴露による発癌機構の解明から導かれる卵巣癌予防の外科戦略	片渕 秀隆	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
198	舌癌発生過程におけるTreg排除療法の研究	折田 頼尚	生命科学研究部	800,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
199	Sirt7によるIRE1Aセチル化を介したHFpEF病態形成機構の解明	山村 智	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
200	胃癌における新規免疫チェックポイント機構NKG2A/HLA-Eの制御因子の解析	山下 晃平	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
201	急性骨髄性白血病に特異的な代謝を標的とした新規薬剤の開発	興梠 健作	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
202	肝内胆管癌におけるDNAメチル化とIDH変異に関する包括的検討	宮田 辰徳	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
203	腎細胞癌におけるMicroRNA-204-5pおよびTRPM3の機能解析	倉橋 竜磨	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
204	テノホビル(TDF)に対する新規耐性HBVの同定と耐性メカニズムの解明	林 佐奈衣	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
205	膵β細胞におけるPHD3による低酸素応答機構の解明	津山 友徳	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
206	肝細胞癌における腫瘍免疫制御機構の機序解明	遊佐 俊彦	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
207	大腸癌における腫瘍免疫が全身性炎症に及ぼすメカニズムの解明	大徳 暢哉	生命科学研究部	1,500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
208	大腸癌患者におけるサルコペニアと腸内細菌の関連	坂本 悠樹	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
209	代謝リモデリングを介した膵癌進展メカニズムの解明	伊東山 瑠美	生命科学研究部	1,500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
210	患者アバター技術を使用した再発小細胞肺癌の薬剤耐性化メカニズムの研究	藤野 孝介	生命科学研究部	400,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
211	前十字靭帯再建術後の移植腱に対するSex, Sox9陽性細胞の解析	舛田 哲朗	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
212	組織工学的手法を用いた甲状腺の再生	西本 康兵	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
213	細胞移植による内耳有毛細胞再生	竹田 大樹	生命科学研究部	100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
214	カルシウム・リン代謝制御からの骨恒常性および老化制御	宮本 健史	生命科学研究部	5,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

18 件

小計 25,600,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
215 認知症原因疾患ごとの認知機能低下の経年変化に関する研究	小山 明日香	生命科学研究部	600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
216 びまん性肝腫瘍に対する症状緩和効果の向上を目指した肝機能温存放射線治療の開発	東家 亮	生命科学研究部	1,500,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
217 ドラッグ・リポジショニングによるLPA1受容体を標的とした新規抗うつ薬の開発	梶谷 直人	生命科学研究部	900,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
218 炭素13標識抗体を用いた体内物質の低侵襲MRイメージング法の開発	笹尾 明	生命科学研究部	1,200,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
219 人工知能を用いて多層検出器CT画像より疑似的なMR画像を作成する研究	中浦 猛	生命科学研究部	1,700,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
220 EOB-MRIとディープラーニングを用いたHCC切除後の予後予測システムの確立	中川 雅貴	生命科学研究部	800,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
221 心房細動治療前心臓CTによる心筋組織性状評価:撮像・評価法確立と臨床的意義の解明	木藤 雅文	生命科学研究部	1,700,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
222 新規エピゲノム解析技術による新しいHBV-cccDNA制御メカニズムの解明	渡邊 丈久	生命科学研究部	1,400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
223 空間的遺伝子発現解析が拓くCdh1介在性の炎症性発癌機構の解明と新規予防戦略	直江 秀昭	生命科学研究部	800,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
224 腫瘍微小環境の制御を目指したiPS細胞由来マクロファージ療法	福島 聡	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
225 RNAヘリカース変異がR-loopの蓄積を招き造血器腫瘍を発症させる機序の解明	松井 啓隆	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
226 褐色脂肪組織再生に関与する臓器間関連因子の分子機序の解明	阪口 雅司	生命科学研究部	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
227 褐色脂肪細胞活性調節におけるマクロファージの役割の解明	瀬ノ口 隆文	生命科学研究部	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
228 西洋型食生活に関連する腸内フローラによる発癌リスクとそのメカニズム解明	有馬 浩太	生命科学研究部	1,200,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
229 ドラッグリポジショニングによる腫瘍微小環境を標的とした革新的治療法の開発	小澄 敬祐	生命科学研究部	1,200,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
230 FusobacteriumによるNOD/NF-κBを介した食道癌進展機序の解明	野元 大地	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
231 Xp11.2転座腎細胞癌多段階発がん機構の解明	神波 大己	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
232 緑内障術後創傷治癒におけるエピゲノム変化とメモリー効果に関する研究	井上 俊洋	生命科学研究部	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
233 エクソソームによる前転移ニッチ形成を標的とした口腔がん転移の革新的治療法開発	吉田 遼司	生命科学研究部	1,300,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
234 口腔扁平上皮癌の免疫チェックポイント阻害薬耐性機序の解明と新規治療戦略	永田 将士	生命科学研究部	1,300,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
235 YAP/TAZを介した膝癌関連線維芽細胞の多様性獲得と癌進展機序の解明	山尾 宣暢	生命科学研究部	1,900,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
236 GISTにおける薬剤耐性、悪性度に関与する血清バイオマーカーの同定	古閑 悠輝	生命科学研究部	1,900,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
237 DNAメチル化異常を標的とした消化器癌の新規バイオマーカーおよび治療法の開発	中村 健一	生命科学研究部	1,900,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
238 網羅的遺伝子解析に基づいた肝細胞癌微小脈管侵襲診断マイクロRNAシグニチャー樹立	山村 謙介	生命科学研究部	1,900,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
239 HTLV-1 Taxの間歇的発現に伴うエピゲノム変容および発がん機構解明	栗田 大輔	生命科学研究部	2,300,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
240 胃がん間質細胞による新しい血行性転移メカニズムの解明	内原 智幸	生命科学研究部	2,000,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
241 CCL8によるPD-L2および免疫チェックポイント関連分子発現のメカニズム解析	岡留 一雄	生命科学研究部	1,900,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
242 食道癌におけるT cell informed phenotypeの網羅的解析	八木 泰佑	生命科学研究部	1,900,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
243 緑内障術後創傷治療過程におけるMCP-1/CCR2の役割の解明	小島 祥	生命科学研究部	1,400,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
244 口腔扁平上皮癌における放射線耐性機構解明とスルファサラジン併用療法の有効性の検討	中嶋 光	生命科学研究部	900,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
245 インスリン受容体β鎖と転写因子FoxK1/2の核内共移行機序と標的遺伝子の解析	荒木 栄一	生命科学研究部	1,400,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
246 生体吸収形状記憶膝臓クリップを用いた革新的膝切離法に関する医工連携研究	山下 洋市	生命科学研究部	2,600,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
247 胎児腸管免疫プライミングを標的とした脳および腸の機能障害の発生機序の解明	近藤 英治	生命科学研究部	1,800,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
248 多系統蛋白質症(MSP)患者の全国実態調査と診療体制構築に関する研究	山下 賢	生命科学研究部	2,077,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
249 新生児スクリーニング対象疾患等の先天代謝異常症における生涯にわたる診療体制の整備に関する研究	中村 公俊	生命科学研究部	17,600,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
250 医師の労働時間短縮のための手法に関する検討	馬場 秀夫	生命科学研究部	1,693,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委

18 件

小計 47,770,000円

250 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
-------	-------	------	----	----------

合計 500,251,057円

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記すこと。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirose M, Ishimaru Y, Sakata S, et al.	呼吸器内科	Rapid shrinkage of retroperitoneal lymphangioliomyoma after sirolimus initiation	Intern Med . 2021 Nov 27	Case report
2	Okabayashi H, Machida H, Masunaga A, et al.	呼吸器内科	18 F-FDG uptake in accessory respiratory muscles shows the respiratory effort of patients with pleuroparenchymal fibroelastosis.	Respirol Case Rep . 2022 Jan 20;10(2):e0900.	Case report
3	Sato R, Imamura K, Semba T, et al.	呼吸器内科	TGF β Signaling Activated by Cancer- Associated Fibroblasts Determines the Histological Signature of Lung Adenocarcinoma.	Cancer Res 2021 Sep 15;81(18):4751-4765	Original Article
4	Masunaga A, Takemura T, Ichiyasu H, et al.	呼吸器内科	Pathological and clinical relevance of selective recruitment of Langerhans cells in the respiratory bronchioles of smokers.	Respir Investig 2021 Jul;59(4):513-521	Original Article
5	Okabayashi H, Kitamura H, Ikeda S, et al.	呼吸器内科	Impact of interstitial pneumonia complications on palliative medication for terminal lung cancer: A single- center retrospective study.	Respir Investig. 2021 Nov;59(6):859-864	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
6	Okabayashi H, Kitamura H, Ikeda S, et al.	呼吸器内科	Patients with Terminal Interstitial Pneumonia Require Comparable or More Palliative Pharmacotherapy for Refractory Dyspnea than Patients with Terminal Lung Cancer.	Palliat Med Rep. 2021 Jun 16;2(1):188-193	Original Article
7	Sakata S, Otsubo K, Yoshida H, et al.	呼吸器内科	Real-world data on NGS using the OncoPrint DxTT for detecting genetic alterations in non-small-cell lung cancer: WJOG13019L.	Cancer Sci. 2022 Jan;113(1):221-228	Original Article
8	Waki K, Ishihara R, Kato Y, et al.	消化器内科	Usefulness of an artificial intelligence system for the detection of esophageal squamous cell carcinoma evaluated with videos simulating overlooking situation	Dig Endosc. 2021 Nov;33(7):1101-1109	Original Article
9	Tokunaga T, Tanaka M, Tanaka K, et al.	消化器内科	Modified albumin-bilirubin grade to predict eligibility for second line therapies at progression on sorafenib therapy in hepatocellular carcinoma patients	Int J Clin Oncol. 2021 May;26(5):922-932	Original
10	Hayashi S, Nagaoka K, Tanaka Y.	消化器内科	Blood-Based Biomarkers in Hepatitis B Virus-Related Hepatocellular Carcinoma, Including the Viral Genome and Glycosylated Proteins	Int J Mol Sci. 2021 Oct 13;22(20):11051	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	Watanabe T, Inoue T, Tanaka Y.	消化器内科	Hepatitis B Core- Related Antigen and New Therapies for Hepatitis B	Microorganisms. 2021 Oct 2;9(10):2083	Review
12	Miyamoto H, Naoe H, Morinaga J, et al.	消化器内科	Clinical impact of gastrointestinal endoscopy on the early detection of pharyngeal squamous cell carcinoma: A retrospective cohort study	World J Gastrointest Endosc. 2021 Oct 16;13(10):491-501	Original Article
13	Tokunaga T, Tateyama M, Tanaka K, et al.	消化器内科	Optimal management of lenvatinib therapy for patients with unresectable hepatocellular carcinoma by balancing the therapeutic effect with the relative dose intensity	Hepato Res. 2022 Jan;52(1):105-119	Original
14	Nosaka K, Kusumoto S, Nakano N, et al.	がんセンター	Clinical significance of the immunoglobulin G heavy-chain repertoire in peripheral blood mononuclear cells of adult T-cell leukemia-lymphoma patients receiving mogamulizumab.	Br J Haematol .Feb 2022. 196(3):629-638	Original Article
15	Higuchi Y, Yasunaga JI, Matsuoka M.	感染免疫診療部	HTLV-1's foxy strategy for survival and Transmission.	Front Virol 3 January 2022	Review

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
16	Inoue Y, Nakano N, Fuji S, et al.	血液内科、膠原病内科	Impact of conditioning intensity and regimen on transplant outcomes in patients with adult T-cell leukemia-lymphoma.	Bone Marrow Transplant 2021 Dec;56(12):2964-2974	Original Article
17	Nosaka K, Matsuoka M	がんセンター	Adult T-cell leukemia-lymphoma as viral diseases: Subtypes based on viral aspects.	Cancer Sci May 2021 112(5):1688-1694	Review
18	Nosaka K, Crawford B, Yi J, et al.	がんセンター	Systematic review of survival outcomes for relapsed or refractory adult T-cell leukemia-lymphoma.	Eur J Haematol Mar 2022 108(3):212-222	Original Article
19	Tatetsu H, Tenen DG, Chai L	血液内科、膠原病内科	The Interplay between Transcription Factor SALL4 and Histone Modifiers in Hematopoietic Stem and Progenitor Cells.	J Cell Immunol 20 Apr 2021 3(1):26-30	Letter
20	Kawano Y, Sasano T, Arima Y, et al.	血液内科、膠原病内科	A novel PDK1 inhibitor, JX06, inhibits glycolysis and induces apoptosis in multiple myeloma cells.	Biochem Biophys Res Commun 2022 Jan 8;587:153-159	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Inoue Y, Nishimura N, Murai M, et al.	血液内科、膠原病内科	Prevention of acute graft-versus-host disease in adult T- cell leukemia- lymphoma patients who received mogamulizumab before allogeneic hematopoietic cell transplantation.	Int J Hematol Mar 2022 115(3):435-439	Case report
22	Inoue Y, Okinaka K, Fuji S, et al.	血液内科、膠原病内科	Severe acute graft- versus-host disease increases the incidence of blood stream infection and mortality after allogeneic hematopoietic cell transplantation: Japanese transplant registry study.	Bone Marrow Transplant . Sep 2021 .56(9):2125- 2136	Original Article
23	Amano M, Yedidi RS, Salcedo-Gó mez PM, et al.	血液内科、膠原病内科	Fluorine Modifications Contribute to Potent Antiviral Activity against Highly Drug- Resistant HIV-1 and Favorable Blood- Brain Barrier Penetration Property of Novel Central Nervous System- Targeting HIV-1 Protease Inhibitors In Vitro.	Antimicrobial Agents and Chemotherapy 15 Feb 2022 66(2):e0171521	Original Article
24	Mizumoto T, Kakizoe Y, Nakagawa T, et al.	腎臓内科	A serine protease inhibitor camostat mesilate prevents podocyte apoptosis and attenuates podocyte injury in metabolic syndrome model rats.	J Pharmacol Sci. 2021 Aug;146(4):192-199	Original Article
25	Mukoyama M, Kuwabara T, Adachi M.	腎臓内科	Mineralocorticoid receptor blockers for moderate kidney dysfunction: more merit than ever?	Hypertens Res. 2021 Oct;44(10):1352-1354	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
26	Hiramatsu A, Izumi Y, Eguchi K, et al.	腎臓内科	Salt-Sensitive Hypertension of the Renal Tubular Cell- Specific NFAT5 (Nuclear Factor of Activated T-Cells 5) Knockout Mice.	Hypertension. 2021 Nov;78(5):1335-1346	Original Article
27	Fukami H, Morinaga J, Nakagami H, et al.	腎臓内科	Vaccine targeting ANGPTL3 ameliorates dyslipidemia and associated diseases in mouse models of obese dyslipidemia and familial hypercholesterolemia.	Cell Rep Med. 2021 Nov 16;2(11):100446	Original Article
28	Igata M, Yagi Y, Hanatani S, et al.	代謝内科学講座	Rapid and dramatic glucose-lowering effect of bromocriptine in an inadequately controlled type 2 diabetes patient with prolactinoma.	J Diabetes Investig 2021 Apr;12(4):668-671	Case report
29	Araki E, Mathieu C, Shiraiwa T, et al.	代謝内科学講座	Long-term (52-week) efficacy and safety of dapagliflozin as adjunct to insulin therapy in Japanese patients with type 1 diabetes: Subgroup analysis of the DEPICT-2 study.	Diabetes Obes Metab 2021 Jul;23(7):1496-1504	Original Article
30	Kondo T, Kitano S, Miyakawa N, et al.	代謝内科学講座	The Amount of Residual Incretin Regulates the Pancreatic β -cell Function and Glucose Homeostasis.	Intern Med. 2021.May.;60(9):1433- 1442	Case report

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Kondo T, Miyakawa N, Kitano S, et al.	代謝内科学講座	Activation of heat shock response improves biomarkers of NAFLD in patients with metabolic diseases.	Endocr Connect 2021 May 19;10(5):521-533	Original Article
32	Araki E, Terauchi Y, Watada H, et al.	代謝内科学講座	Efficacy and safety of oral semaglutide in Japanese patients with type 2 diabetes: A post hoc subgroup analysis of the PIONEER 1, 3, 4 and 8 trials.	Diabetes Obes Metab 2021 Dec;23(12):2785- 2794	Original Article
33	Hoshiyama T, Ashikaga K, Tsujiita K, et al.	循環器内科	Efficacy of cryo- ablation during atrioventricular nodal reentrant tachycardia.	Heart Vessels. 2021 Apr;36(4):541-548	Original Article
34	Nakashima N, Takashio S, Morioka M, et al.	循環器内科	Preclinical diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in a patient undergoing carpal tunnel release.	J Cardiol Cases. 2021 May 21;24(5):250-253	Case report
35	Kuyama N, Kataoka Y, Takegami M, et al.	循環器内科	Circulating Mature PCSK9 Level Predicts Diminished Response to Statin Therapy.	J Am Assoc. 2021 Jun;10(11):e019525	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
36	Sueta D, Matsushita K, Tsujita K.	循環器内科	Are We Overtreating Incidental Pulmonary Embolism.	Circ J. 2021 Aug 25;85(9):1690	Others
37	Kanazawa H, Kaikita K, Ito M, et al.	循環器内科	Improvement of Vascular Endothelial Function Reflects Nonrecurrence After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation.	J Am Heart Assoc. 2021 Sep 7;10(17):e021551	Original Article
38	Ishii M, Seki T, Kaikita K, et al.	循環器内科	Association of short- term exposure to air pollution with myocardial infarction with and without obstructive coronary artery disease.	Eur J Prev Cardiol. 2021 Oct 25;28(13):1435-1444	Original Article
39	Hanatani S, Izumiya Y, Yamamoto M, et al.	循環器内科	A simple method of sarcopenia detection can predict adverse cardiovascular events in patients with abdominal obesity.	Int J Obes. 2021 Oct;45(10):2214-2220	Original Article
40	Nakamura T, Tsujita K.	循環器内科	Current trends and future perspectives for heart failure treatment leveraging cGMP modifiers and the practical effector PKG.	J Cardiol.2021 Oct;78(4):261-268	Review

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Tsujita K.	循環器内科	Realistic detection of natural history of early coronary atherosclerosis: Best part of computed tomography-derived fractional flow reserve?	Int J Cardiol. 2021 Dec 1;344:34-35	Others
42	Egashira K, Sueta D, Komorita T, et al.	循環器内科	HFA-PEFF scores: prognostic value in heart failure with preserved left ventricular ejection fraction	Korean J Intern Med. 2022 Jan;37(1):96-108	Original Article
43	Hirakawa K, Yamamoto E, Takashio S, et al.	循環器内科	Balloon pulmonary angioplasty in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Cardiovasc Interv Ther. 2022 Jan;37(1):60-65	Review
44	Takashio S, Yamada T, Nishi M, et al.	循環器内科	Sex-related differences in the clinical characteristics of wild-type transthyretin amyloidosis cardiomyopathy.	J Cardiol. 2022 Jan;79(1):50-57	Original Article
45	Sueta D, Yamamoto E, Usuku H, et al.	循環器内科	Rationale and Design of the Efficacy and Safety of Esaxerenone in Hypertensive Patients With Left Ventricular Hypertrophy (ESES-LVH) Study - Protocol for a Multicenter, Open-Label, Exploratory Interventional Study.	Circ Rep. 2022 Jan 20;4(2):99-104	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
46	Singu T, Nakajima M, Ueda A, et al.	脳神経内科	Transient optic neuritis and perineuritis associated with anti- MOG antibody after SARS-CoV-2 mRNA vaccination	Neuroimmunology Reports. 2022; 2: 100077. Published online 2022 Feb 17.	Original Article
47	Nakajima M, Uyama E, Suga T, et al.	脳神経内科	Deep venous thrombosis in patients with neurological diseases: A multicenter, prospective study	J Clin Neurosci. 2021 Sep;91:214-218	Original Article
48	Nakajima M, Inatomi Y, Ueda A, et al.	脳神経内科	Preceding direct oral anticoagulant administration reduces the severity of stroke in patients with atrial fibrillation - K-PLUS Registry	J Clin Neurosci. 2021 Jul;89:106-112	Original Article
49	Nakahara K, Nakane S*, Nagaishi A, et al.	脳神経内科	Very late onset neuromyelitis optica spectrum disorders.	Eur J Neurol. 2021 Aug;28(8):2574-2581	Original Article
50	Takaki J, Yoshinaga T, Nishigawa K, et al.	心臓血管外科	Left atrial intramural hematoma after percutaneous coronary intervention.	Clin Case Rep. 2021 Aug 15;9(8):e04654	Case report

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Shimbori R, Takaki J, Hosoda Y, et al.	心臓血管外科	Incidentally detected atrioventricular septal defect in an adult	Clin Case Rep. 2021 Dec 22;9(12):e05110	Case report
52	Koga-Ikuta A, Fukushima S, Kawamoto N, et al.	心臓血管外科	Reverse remodeling after aortic valve replacement for chronic aortic regurgitation	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2021 Jun 28;33(1):10-18	Original Article
53	Nishigawa K, Fukui T, Takaki J, et al.	心臓血管外科	Coronary endarterectomy for diffusely diseased coronary artery: an ace in the hole in coronary artery surgery	JTCVS Techniques. 2021 Dec; 10: 133-137.	Review
54	Sueta A, Yamamoto- Ibusuki M, Tomiguchi M, et al.	乳腺・内分泌外科	Predictive and prognostic significance of BRCAness in HER2- negative breast cancer.	Breast Cancer. 2022 Mar;29(2):368-376	Original Article
55	Sueta A, Fujiki Y, Goto- Yamaguchi L, et al.	乳腺・内分泌外科	Exosomal miRNA profiles of triple- negative breast cancer in neoadjuvant treatment.	Oncol Lett. 2021 Dec;22(6):819	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
56	Kawabata, S., Sakamoto, et al.	小児外科・移植外科	Intellectual development of patients with biliary atresia who underwent living donor liver transplantation in infancy	Pediatr Surg Int . 2022 Feb;38(2):201-208.	Original Article
57	Honda, M., Kadohisa, et al.	小児外科・移植外科	Directly recruited GATA6 + peritoneal cavity macrophages contribute to the repair of intestinal serosal injury	Nat Commun . 2021 Dec 15;12(1):7294	Original Article
58	Sambommatsu, Y., Shimata, et al.	小児外科・移植外科	Portal Vein Complications After Adult Living Donor Liver Transplantation: Time of Onset and Deformity Patterns Affect Long-Term Outcomes	Liver Transpl . 2021 Jun;27(6):854-865.	Original Article
59	Irie T, Yoshii D, Komohara Y, et al.	小児外科・移植外科	IL-34 in hepatoblastoma cells potentially promote tumor progression via autocrine and paracrine mechanisms	Cancer Med . 2022 Mar;11(6):1441-1453.	Original Article
60	Honda M, Shimata K, Sambommatsu Y, et al.	小児外科・移植外科	Hungry Bone Syndrome After Living Donor Liver Transplant for Biliary Atresia.	Exp Clin Transplant. 2021 Apr;19(4):386-389.	Case report

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Nishizawa H, Baba M, Furuya M, et al.	泌尿器科	t(6;11) renal cell carcinoma. A case report successfully diagnosed by using fluorescence in situ hybridization.	IJU Case Rep. 2021 Aug 12;4(6):375-378	Case report
62	Anami T, Komohara Y, Miura Y, et al.	泌尿器科	High T-cell infiltration in tumor tissue and younger age predict the response to pembrolizumab in recurrent urothelial cancer.	Med Mol Morphol. 2021 Dec;54(4):316-323	Original Article
63	Takeshi Motohara , Go J Yoshida , Hidetaka Katabuchi, et al.	産婦人科	The hallmarks of ovarian cancer stem cells and niches: Exploring their harmonious interplay in therapy resistance	Semin Cancer Biol . 2021 Dec;77:182-193	Review
64	Takeshita Y, Motohara T, Kadomatsu T, et al.	産婦人科	Angiopoietin-like protein 2 decreases peritoneal metastasis of ovarian cancer cells by suppressing anoikis resistance	Biochem Biophys Res Commun . 2021 Jul 5;561:26-32	Original Article
65	Kishimoto K, Kodera C, Saito F, et al.	産婦人科	Progressive idiopathic juvenile osteoporosis in pregnancy: A case report of two successive pregnancies in the same woman	Case Rep Womens Health . 2021 May 8;31:e00325.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
66	Yamaguchi M, Ohba T, Katabuchi H.	産婦人科	Safety and Efficacy of a Single Local Methotrexate Injection for Cesarean Scar Pregnancy	J Minim Invasive Gynecol . 2022 Mar;29(3):416-423	Original Article
67	Kondoh E, Chigusa Y, Ueda A, et al.	産婦人科	CT scan assessment of intrauterine balloon tamponade failure for the treatment of atonic postpartum haemorrhage: implications for treatment	BJOG . 2021 Oct;128(11):1726-1731	Original Article
68	Kayo Kashiwada-Nakamura, Tselmeg Mijiddorj Myangat, Ikko Kajihara, et al.	皮膚科・形成再建科	Circulating Janus kinase family DNA levels in psoriasis: elevated JAK2 DNA copy number in cell-free DNA.	The Journal of dermatology, March 2022,49(3)e106-107	Letter
69	Tselmeg Mijiddorj Myangat, Shoma Wada, Soichiro Sawamura, et al.	皮膚科・形成再建科	Microsatellite instability analysis using Promega panel in cutaneous squamous cell carcinoma.	The Journal of dermatology, February 2022,49(2)e67-68	Letter
70	Soichiro Sawamura, Tselmeg Mijiddorj Myangat, Ikko Kajihara, et al.	皮膚科・形成再建科	Genomic landscape of circulating tumour DNA in metastatic extramammary Paget's disease.	Experimental dermatology, March 2022,31(3)341-348	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Yudo Kusaba, Ikko Kajihara, Ryoko Sakamoto, et al.	皮膚科・形成再建科	Overexpression of tumor endothelial marker 8 protein predicts poor prognosis in angiosarcoma.	The Journal of dermatology,October 2021,48(10)e514-516	Letter
72	Hisashi Kanemaru, Yukari Mizukami, Akira Kaneko, et al.	皮膚科・形成再建科	A mechanism of cooling hot tumors: Lactate attenuates inflammation in dendritic cells.	iScience,September 2021,224(9)103067	Original Article
73	Itsuki Takei, Soichiro Sawamura, Tselmeg Mijiddorj Myangat, et al.	皮膚科・形成再建科	Clinical significance of skin colonization of Pseudomonas aeruginosa in cutaneous squamous cell carcinoma.	The Journal of dermatology,December 2021,48(12)e581-582	Letter
74	Kayo Kashiwada- Nakamura, Hiromitsu Noguchi, Tadahiko Matsumoto, et al.	皮膚科・形成再建科	Subcutaneous cystic phaeohyphomycosis caused by Phaeoacremonium minimum.	The Journal of dermatology,May 2021,48(5)e234-235	Letter
75	Saki Otsuka- Maeda, Myangat Tselmeg Mijiddorj, Ikko Kajihara, et al.	皮膚科・形成再建科	Overexpression of Janus kinase 2 protein in extramammary Paget's disease.	Japanese journal of clinical oncology,April 2021,51(7)1176-1178	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
76	Saki Maeda- Otsuka, Tselmeg Mijiddorj Myangat, Ikko Kajihara, et al.	皮膚科・形成再建科	Status of microsatellite stability in angiosarcoma: Angiosarcoma is a microsatellite stable tumor.	The Journal of dermatology, August 2021,48(8)e368-e369	Letter
77	Satoru Mizuhashi, Satoshi Fukushima, Takayuki Ishibashi, et al.	皮膚科・形成再建科	Nucleosome assembly protein 1-like 4, a new therapeutic target for proliferation and invasion of melanoma cells	Journal of Dermatological Science, April 2021,102(1)16-24	Original Article
78	Satoru Mizuhashi, Yosuke Kubo, Satoshi Fukushima, et al.	皮膚科・形成再建科	Immune cell therapy against disseminated melanoma by utilizing induced pluripotent stem cell-derived myeloid cell lines producing interferon- beta or interleukin- 15/interleukin-15 receptor alpha	Journal of Dermatological Science, 2021 May, 102(1)133-136	Letter
79	Akira Kaneko, Hisashi Kanemaru, Ikko Kajihara, et al.	皮膚科・形成再建科	Liquid biopsy-based analysis by ddPCR and CAPP-Seq in melanoma patients	Journal of Dermatological Science, June 2021, 102(3)158-166	Original Article
80	Kimura A, Nakashima KI, Inoue T	眼科	Correlation between intraocular pressure reduction and anterior chamber aqueous flare after micropulse transscleral cyclophotocoagulation.	BMC Ophthalmol. 2021 Jun;21:266.	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Iraha S, Takahara Y, Urahashi Y, et al.	眼科	Factors associated with the surgical outcomes of Baerveldt glaucoma implant for open-angle glaucoma, an age-related eye disease	Sci Rep. 2022 Jan;12:1359.	Original Article
82	Hiroki Takeda, Anna Dondzillo, Jessica A Randall, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Selective ablation of cochlear hair cells promotes engraftment of human embryonic stem cell-derived progenitors in the mouse organ of Corti	Stem Cell Res Ther. 2021 Jun 19;12(1):352	Original Article
83	Satoru Miyamaru, Daizo Murakami, Kohei Nishimoto, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Optimal management of the unilateral recurrent laryngeal nerve involvement in patients with thyroid cancer	Cancers(Basel) 2021 Apr 28;13(9):2129	Original Article
84	.Kido J, Matsumoto S, Häberle J, et al.	小児科	Long-term outcome of urea cycle disorders: Report from a nationwide study in Japan	J Inherit Metab Dis. 2021 Jul;44(4):826-837	Original Article
85	Kohrogi K, Hino S, Sakamoto A, et al.	小児科	LSD1 defines erythroleukemia metabolism by controlling the lineage-specific transcription factors GATA1 and C/EBP α .	Blood Adv. 2021 May 11;5(9):2305-2318.	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
86	Kido J, Matsumoto S, Häberle J, et al.	小児科	Role of liver transplantation in urea cycle disorders: Report from a nationwide study in Japan.	J Inherit Metab Dis. 2021 Nov;44(6):1311-1322.	Original Article
87	Kido J, Matsumoto S, Takeshita E, et al.	小児科	Current status of surviving patients with arginase 1 deficiency in Japan.	Mol Genet Metab Rep. 2021 Oct 1;29:100805	Original Article
88	Sawada T, Kido J, Sugawara K, et al.	小児科	Current status of newborn screening for Pompe disease in Japan.	Orphanet J Rare Dis. 2021 Dec 18;16(1):516.	Original Article
89	Kinoshita Y, Momosaki K, Matsumoto S, et al.	小児科	Severe metabolic acidosis with cardiac involvement in DNM1L-related mitochondrial encephalopathy.	Pediatr Int. 2022 Jan;64(1):e14879.	Original Article
90	Sawada T, Kido J, Sugawara K, et al.	小児科	Newborn screening for Gaucher disease in Japan.	Mol Genet Metab Rep. 2022 Feb 18;31:100850.	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Kido J, Matsumoto S, Sugawara K, et al.	小児科	Variants associated with urea cycle disorders in Japanese patients: Nationwide study and literature review.	Am J Med Genet A. 2021 Jul;185(7):2026-2036.	Review
92	Sawada T, Kido J, Sugawara K, et al.	小児科	High-Risk Screening for Fabry Disease: A Nationwide Study in Japan and Literature Review.	Diagnostics (Basel). 2021 Sep 27;11(10):1779.	Review
93	Kido J., Mitsubuchi H., Watanabe T., et al.	小児科	A female patient with GSD IXc developing multiple and recurrent hepatocellular carcinoma: a case report and literature review	Hum Genome Var. 2021 Dec 8;8(1):45	Case report
94	Hiroshi Tamura.	小児科	Trends in pediatric nephrotic syndrome	World J Nephrol 2021 September 25; 10(5): 88-100	Review
95	Hiroshi Tamura , Shohei Kuraoka, Hitoshi Nakazato .	小児科	Steroid therapy is effective for IgA nephropathy after liver transplantation in a pediatric patient	Clin Case Rep 2021 May 15;9(5):e04237	Case report

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
96	Hiroshi Tamura Shohei Kuraoka Yuko Hidaka Hiroko Nagata Keishiro Furuie Hitoshi Nakazato, et al.	小児科	A Case of Nephrotic Syndrome that Resolved with Influenza B Infection	Case Rep Nephrol Dial. 2021 Apr 21;11(1):103-109	Case report
97	Liu R, Shinriki S, Maeshiro M, et al.	歯科口腔外科学講座、臨床病態解析学講座	Tumour Suppressor CYLD is Required for Clathrin-mediated Endocytosis of EGFR and Cetuximab-induced Apoptosis in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma.	Cancers (Basel). 2021 Dec 30;14(1):173	Original Article
98	Kawaguchi S, Kawahara K, Fujiwara Y, et al.	歯科口腔外科学講座	Naringenin potentiates anti-tumor immunity against oral cancer by inducing lymph node CD169-positive macrophage activation and cytotoxic T cell infiltration	Cancer Immunology, Immunotherapy. 2022 Jan 19.	Original Article
99	Kawahara K, Nagata M, Yoshida R, et al.	歯科口腔外科学講座	miR-30a attenuates drug sensitivity to 5-FU by modulating cell proliferation possibly by downregulating cyclin E2 in oral squamous cell carcinoma.	Biochem Biophys Rep . 2021 Sep 21;28:101114.	Original Article
100	Yamana K, Inoue J, Yoshida R, et al.	歯科口腔外科学講座	Extracellular vesicles derived from radioresistant oral squamous cell carcinoma cells contribute to the acquisition of radioresistance via the miR-503-3p-BAK axis.	J Extracell Vesicles. 2021 Dec;10(14):e12169	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
101	Gohara S, Yoshida R, Kawahara K, et al.	歯科口腔外科学講座	Re-evaluating the clinical significance of serum p53 antibody levels in patients with oral cancer in Japanese clinical practice.	Mol Clin Oncol. 2021 Oct;15(4):209.	Original Article
102	Naito H, Sueta D, Ogata K, et al.	災害医療教育研究センター	A case of Acute Aortic Dissection with Orofacial Pain as the Initial Manifestation.	Volume 33, Issue 3, May 2021, Pages 340-343	Case report
103	Tanaka T, Fukuma D, Yuno A, et al.	歯科口腔外科学講座	A rare case of prostate cancer with spontaneous gingival bleeding as the initial manifestation of underlying disseminated intravascular coagulationIntern.	Oral sci Int. 26:1141, published: 26 March 2022	Case report
104	Nagayama Y, Goto M, Sakabe D, et al.	画像診断・治療科	Radiation Dose Reduction for 80-kVp Pediatric CT Using Deep Learning-Based Reconstruction: A Clinical and Phantom Study	AJR Am J Roentgenol. 2022 Feb 23;1-10. doi: 10.2214/AJR.21.27255. Online ahead of print.	Original Article
105	Hayashi H, Oda S, Kidoh M, et al.	画像診断・治療科	Multiparametric Cardiac Magnetic Resonance Imaging of Cardiac Involvement Associated With Sporadic Inclusion Body Myositis	Circ Cardiovasc Imaging. 2021 Dec;14(12):1155-1156. doi: 10.1161/CIRCIMAGING.121.013440. Epub 2021 Nov 23.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
106	Nagayama Y, Sakabe D, Goto M, et al.	画像診断・治療科	Deep Learning-based Reconstruction for Lower-Dose Pediatric CT: Technical Principles, Image Characteristics, and Clinical Implementations	Radiographics. 2021 Nov- Dec;41(7):1936-1953.	Review
107	Oda S, Morita K, Kidoh M, et al.	画像診断・治療科	Three-Dimensional Modified Dixon ECG-Gated Cardiac Magnetic Resonance Imaging in Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy/Dys plasia	Circ Cardiovasc Imaging. 2021 Oct;14(10):e012745.	Case report
108	Nagayama Y, Inoue T, Kato Y, et al.	画像診断・治療科	Relative Enhancement Ratio of Portal Venous Phase to Unenhanced CT in the Diagnosis of Lipid-poor Adrenal Adenomas	Radiology. 2021 Nov;301(2):360-368.	Original Article
109	Nagayama Y, Inoue T, Oda S, et al.	画像診断・治療科	Unenhanced Dual- Layer Spectral- Detector CT for Characterizing Indeterminate Adrenal Lesions	Radiology. 2021 Nov;301(2):369-378.	Original Article
110	Nagayama Y, Kato Y, Inoue T, et al.	画像診断・治療科	Correction to: Liver fibrosis assessment with multiphasic dual-energy CT: diagnostic performance of iodine uptake parameters	Eur Radiol. 2021 Nov;31(11):8823-8824.	Letter

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
111	Nagayama Y, Kato Y, Inoue T, et al.	画像診断・治療科	Liver fibrosis assessment with multiphasic dual- energy CT: diagnostic performance of iodine uptake parameters	Eur Radiol. 2021 Aug;31(8):5779-5790.	Original Article
112	Oda S, Kidoh M, Morita K, et al.	画像診断・治療科 循環器内科	Histogram features of Fabry disease with pseudonormalization in native T1 mapping	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2021 Apr 28;22(5):e23. doi: 10.1093/ehjci/jeaa271.	Case report
113	Tanoue S, Nakaura T, Nagayama Y, et al.	画像診断・治療科	Virtual Monochromatic Image Quality from Dual-Layer Dual- Energy Computed Tomography for Detecting Brain Tumors	Korean J Radiol. 2021 Jun;22(6):951-958.	Original Article
114	Tadashi Matsumoto, Ryo Toya, Yoshinobu Shimohigashi, et al.	放射線治療科	Plan Quality Comparisons Between 3D-CRT, IMRT, and VMAT Based on 4D-CT for Gastric MALT Lymphoma	Anticancer research, 2021 Aug;41(8):3941-3947	Original Article
115	Yamaguchi K, Saito T, Toya R, et al.	放射線治療科	Palliative radiotherapy for painful lymph node metastases	Radiation Oncology, 2021 Sep 16;16(1):178-184	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
116	Ryo Toya, Takahiro Watakabe, Daizo Murakami, et al.	放射線治療科	Concurrent Chemoradiotherapy With Docetaxel, Cisplatin, and 5- Fluorouracil for T3 N0 Glottic Carcinoma Without Vocal Cord Fixation	Anticancer Research January 2022, 42 (1) 205-209	Original Article
117	Tomohiko Matsuyama, Yoshiyuki Fukugawa, Junichiro Kuroda, et al.	放射線治療科	A prospective comparison of adaptive and fixed boost plans in radiotherapy for glioblastoma+B48B49	Radiation Oncology, 2022 Feb 22;17(1):40	Original Article
118	Sasaki H, Jono T, Fukuhara R, et al.	神経精神科	Association between unknown long-term fever and depression in an adolescent patient.	Psychiatry and Clinical Neurosciences. 2021 Oct;75(10):318-319.	Letter
119	Kai K, Komohara Y, Esumi S, et al.	脳神経外科	Macrophage/microgli a-derived IL-1 β induces glioblastoma growth via the STAT3/NF- κ B pathway.	Hum Cell. 2022 Jan;35(1):226-237.	Original Article
120	Kawano T, Shinojima N, Hanatani S, et al.	脳神経外科	Atypical pituitary abscess lacking rim enhancement and diffusion restriction with an unusual organism, Moraxella catarrhalis: A case report and review of the literature.	Surg Neurol Int. 2021 Dec 20;12:617.	Case report

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
121	Hamasaki T, Yamakawa T, Fujiwara K, et al.	脳神経外科	Sympathetic hyperactivity, hypertension, and tachycardia induced by stimulation of the ponto-medullary junction in humans.	Clin Neurophysiol. 2021 Jun;132(6):1264-1273.	Original Article
122	Inoue H, Yamamura R, Yamada K, et al.	脳神経外科	Hemichorea induced by a sphenoid ridge meningioma.	Surg Neurol Int. 2021 May 3;12:201.	Case report
123	Inoue H, Kawano T, Kaku Y, et al.	脳神経外科	Minimally invasive treatment strategy for partially thrombosed anterior inferior cerebellar artery aneurysm: A case report.	Surg Neurol Int. 2021 Apr 26;12:195.	Case report
124	Uekawa K, Kaku Y, Amadatsu T, et al.	脳神経外科	Intracranial and extracranial multiple arterial dissecting aneurysms in rheumatoid arthritis: A case report.	Interv Neuroradiol. 2021 Apr;27(2):212-218.	Case report
125	Nakamura S, Nonaka T, Komatsu S, et al.	麻酔科	Oral acetaminophen-induced spinal 5-hydroxytryptamine release produces analgesic effects in the rat formalin test	Biomed Pharmacother. 2022 Feb (Online)	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
126	Tokunaga K, Ejima T, Nakashima T, et al.	集中治療部	A novel technique for assessment of post-extubation airway obstruction can successfully replace the conventional cuff leak test: a pilot study	BMC Anesthesiol. 2022 Feb 2;22(1):38	Original Article
127	Usuku H, Yamamoto E, Oike F, et al.	循環器内科、検査部	Current Awareness and Status of Venous Ultrasonography in Kumamoto Prefecture: A Report of the Kumamoto Cardiovascular Echocardiography Standardization Project.	Circ Rep. 2021 Jun 29;3(8):449-456	Original Article
128	Ishihara A, Yamauchi T, Ikeda K, et al.	検査部	Glycosylated ferritin as an improved marker for post-transfusion iron overload.	Int J Hematol. 2021 Apr;113(4):537-546	Original Article
129	Kosuke Morita, Takeshi Nakaura, Masami Yoneyama, et al.	医療技術部診療放射線技術部門 画像診断・治療科	Non-contrast renal MRA using multi-shot gradient echo EPI at 3-T MRI	European Radiology, 2021 Aug;31(8):5959-5966.	Original Article
130	Takafumi Emoto, Seitaro Oda, Masafumi Kidoh, et al.	医療技術部診療放射線技術部門 画像診断・治療科	Myocardial Extracellular Volume Quantification Using Cardiac Computed Tomography: A Comparison of the Dual-energy Iodine Method and the Standard Subtraction Method	Academic Radiology, Vol 28, No 5, May 2021, e119-e126	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
131	Katsuyuki Sagishima, Kazutaka Oda, and Yoshihiro Kinoshita.	集中治療部	Prediction of Apnea Testing Duration to Ensure Safety During Brain Death Assessment	Respir Care. 2021 May;66(5):793-797	Original Article
132	Koichiro Fujisue, Eiichiro Yamamoto, Daisuke Sueta, et al.	医療の質・安全管理部 循環器内科	Increased soluble programmed cell death-ligand 1 is associated with acute coronary syndrome	Int J Cardiol . 2022 Feb 15;349:1-6.	Original Article
133	Hisaki Naito, Daisuke Sueta, Satoko Hanatani, et al.	災害医療教育研究センター	Factors Affecting Human Damage in Heavy Rains and Typhoon Disasters	Tohoku J Exp Med. 2022 Feb;256(2):175-185	Original Article
134	Yamakawa Y, Morioka M, Negoto T, et al.	薬剤部	A novel step-down infusion method of barbiturate therapy: Its safety and effectiveness for intracranial pressure control	Pharmacol Res Perspect. 2021 Apr;9(2):e00719	Original Article
135	Oda K, Hashiguchi Y, Katanoda T, et al.	薬剤部	Lowered Risk of Nephrotoxicity through Intervention against the Combined Use of Vancomycin and Tazobactam/Piperacillin: A Retrospective Cohort Study.	Microbiol Spectr. 2021 Sep 3;9(1):e0035521	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
136	Oda K, Uchino S, Kurogi K, et al.	薬剤部	Clinical evaluation of an authorized medical equipment based on high performance liquid chromatography for measurement of serum voriconazole concentration	J Pharm Health Care Sci. 2021 Nov 9;7(1):42	Original Article
137	Oda K, Hashiguchi Y, Kimura T, et al.	薬剤部	Performance of Area under the Concentration-Time Curve Estimations of Vancomycin with Limited Sampling by a Newly Developed Web Application.	Pharm Res. 2021 Apr;38(4):637-646	Original Article
138	Miyake S, Kanemaru A, Saito H, et al.	薬剤部	CYLD: a novel stratification marker for malignant tumors	Journal of Asian Association of Schools of Pharmacy 2021May 20; 10: 17-22	Review
139	Hayashi H, Uemura N, Zhao L, et al.	消化器外科学	Biological Significance of YAP/TAZ in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Front Oncol 11:700315, 2021 Jul	Review
140	Hayashi H, Uemura N, Matsumura K, et al.	消化器外科学	Recent advances in artificial intelligence for pancreatic ductal adenocarcinoma.	World J Gastroenterol 27:7480-7496, 2021 Nov	Review

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
141	Baba H.	消化器外科学	A Great Success! 5.164 Is the First Impact Factor for AGSurg.	Ann Gastroenterol Surg 5:588, 2021 Sep	Others
142	Harada K, Iwatsuki M, Baba Y, et al.	消化器外科学	Further Consideration of Lymphadenectomy Along the Left Recurrent Laryngeal Nerve During Robot- Assisted Minimally Invasive Esophagectomy.	Ann Surg Oncol 28:5811- 5812, 2021 Oct	Others
143	Hayashi H, Baba H.	消化器外科学	Precision surgery with the genetic assessment for operable pancreatic cancer beyond the radiological assessment alone.	Hepatobiliary Surg Nutr 10:261-263, 2021 Apr	Others
144	Yamao T, Tamura Y, Hayashi H, et al.	消化器外科学	Novel Approach via the Round Ligament in Portal Vein Embolization.	World J Surg 45:2878- 2885, 2021 Sep	Original Article
145	Kosumi K, Baba Y, Baba H.	消化器外科学	Response to the Comment on "Genomic Alteration and Immunity- Implications in Esophageal Cancer".	Ann Surg 274:e905-e906, 2021 Dec	Others

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
146	Kitano Y, Hayashi H, Matsumoto T, et al.	消化器外科学	Borderline resectable for colorectal liver metastases: Present status and future perspective.	World J Gastrointest Surg 13:756-763, 2021 Aug	Review
147	Yamane T, Izumi D, Kinoshita S, et al.	消化器外科学	Pancreaticoduodenec tomy at a Non-high- volume Center and Efforts to Perform Safe Surgery.	Anticancer Res 41:5223- 5229, 2021 Oct	Original Article
148	Imai K, Allard MA, Baba H, et al.	消化器外科学	Optimal patient selection for successful two-stage hepatectomy of bilateral colorectal liver metastases.	Ann Gastroenterol Surg 5:634-638, 2021 May	Review
149	Matsumoto C, Iwatsuki M, Morinaga T, et al.	消化器外科学	Long-term survival after multidisciplinary treatments for advanced esophagogastric junction cancer.	Int Cancer Conf J 10:207- 211, 2021 Apr	Case report
150	Mima K, Hayashi H, Nakagawa S, et al.	消化器外科学	Frailty is associated with poor prognosis after resection for pancreatic cancer.	Int J Clin Oncol 26:1938- 1946, 2021 Oct	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
151	Maeda Y, Saito S, Ohuchi M, et al.	消化器外科学	Appendiceal bleeding in an elderly male: a case report and a review of the literature.	Surg Case Rep 7:147, 2021 Jun	Case report
152	Kitamura F, Miyata T, Uemura N, et al.	消化器外科学	Proteomic Analysis of Malignant Ascites From Patients With Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Anticancer Res 41:2895- 2900, 2021 Jun	Original Article
153	Yasuda T, Koiwa M, Yonemura A, et al.	消化器外科学	Protocol to establish cancer-associated fibroblasts from surgically resected tissues and generate senescent fibroblasts.	STAR Protoc 2:100553, 2021 May	Others
154	Sakamoto Y, Mima K, Ishimoto T, et al.	消化器外科学	Relationship between Fusobacterium nucleatum and antitumor immunity in colorectal cancer liver metastasis.	Cancer Sci 112:4470- 4477, 2021 Nov	Original Article
155	Itoyama R, Okabe H, Yamashita YI, et al.	消化器外科学	Intraoperative bile culture helps choosing antibiotics in pancreaticoduodenec tomy: Mechanistic profiling study of complex rink between bacterobilia and postoperative complications.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 28:1107-1114, 2021 Dec	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
156	Matsuishi K, Eto K, Morito A, et al.	消化器外科学	Retroperitoneal fibrous tumor recurring as lung metastases after 10 years: a case report.	Surg Case Rep 7:127, 2021 May	Case report
157	Kato R, Miyamoto Y, Sawayama H, et al.	消化器外科学	Relapse of Rectal Cancer in an Anal Fistula: A Rare Case.	In Vivo 35:2937-2940, 2021 Sep-Oct	Case report
158	Kaida T, Doi K, Yumoto S, et al.	消化器外科学	Cost-effectiveness of self-expandable metallic stents as bridge to surgery for obstructive colorectal cancer.	Int J Clin Oncol 26:1485- 1491, 2021 Aug	Original Article
159	Nitta H, Allard MA, Sebagh M, et al.	消化器外科学	Ideal Surgical Margin to Prevent Early Recurrence After Hepatic Resection for Hepatocellular Carcinoma.	World J Surg 45:1159- 1167, 2021 Apr	Original Article
160	Yoshida N, Eto K, Baba H., et al.	消化器外科学	ASO Author Reflections: Establishment of an Ideal Criterion for Evaluating the Therapeutic Effect on Esophageal Cancer.	Ann Surg Oncol 28:8483- 8484, 2021 Dec	Others

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
161	Sawayama H, Miyamoto Y, Mima K, et al.	消化器外科学	Preoperative iron status is a prognosis factor for stage II and III colorectal cancer.	Int J Clin Oncol 26:2037- 2045, 2021 Nov	Original Article
162	Morinaga T, Iwatsuki M, Yamashita K, et al.	消化器外科学	Oligometastatic recurrence as a prognostic factor after curative resection of esophageal squamous cell carcinoma.	Surg Today 51:798-806, 2021 May	Original Article
163	Mima K, Kosumi K, Baba Y, et al.	消化器外科学	The microbiome, genetics, and gastrointestinal neoplasms: the evolving field of molecular pathological epidemiology to analyze the tumor- immune-microbiome interaction.	Hum Genet 140:725-746, 2021 May	Review
164	Nomoto D, Baba Y, Akiyama T, et al.	消化器外科学	Adapted systemic inflammation score as a novel prognostic marker for esophageal squamous cell carcinoma patients.	Ann Gastroenterol Surg 5:669-676, 2021 Jun 15	Original Article
165	Maeda Y, Nakahara O, Saito S, et al.	消化器外科学	Ultrasound-guided non-invasive retraction for strangulated obturator hernia allows elective radical surgery: analysis of 12 cases.	Surg Case Rep 7:83, 2021 Apr	Case report

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
166	Izumi D, Zhu Z, Chen Y, et al.	消化器外科学	Assessment of the Diagnostic Efficiency of a Liquid Biopsy Assay for Early Detection of Gastric Cancer.	JAMA Netw Open 4:e2121129, 2021 Aug	Others
167	Horinouchi T, Yoshida N, Matsumoto C, et al.	消化器外科学	Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-positive Primary Adenocarcinoma in the Cervical Oesophagus: A Case Report.	In Vivo 35:2297-2303, 2021 Jul-Aug	Review
168	Ofuchi T, Imai K, Nakao Y, et al.	消化器外科学	A case of primary carcinosarcoma of the liver with combined hepatocellular carcinoma and cholangiocarcinoma.	Clin J Gastroenterol 14:1476-1483, 2021 Oct	Case report
169	Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Akiyama T, et al.	消化器外科学	Time trial of dry box laparoscopic surgical training improves laparoscopic surgical skills and surgical outcomes.	Asian J Endosc Surg 14:373-378, 2021 Jul	Original Article
170	Yoshida N, Baba H.	消化器外科学	Response to the Letter to the Editor for "Clinical Importance of Mean Corpuscular Volume as a Prognostic Marker After Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Retrospective Study".	Ann Surg 274:e752-e753, 2021 Dec	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
171	Nakagawa S, Yamashita YI, Umezaki N, et al.	消化器外科学	Four gene intrahepatic metastasis-risk signature predicts hepatocellular carcinoma malignant potential and early recurrence from intrahepatic metastasis.	Surgery 169:903-910, 2021 Apr	Original Article
172	Itoyama R, Yasuda- Yoshihara N, Kitamura F, et al.	消化器外科学	Metabolic shift to serine biosynthesis through 3-PG accumulation and PHGDH induction promotes tumor growth in pancreatic cancer.	Cancer Lett 523:29-42, 2021 Dec	Original Article
173	Harada K, Yamashita K, Iwatsuki M, et al.	消化器外科学	Intraperitoneal therapy for gastric cancer peritoneal carcinomatosis.	Expert Rev Clin Pharmacol 15:43-49, 2022 Jan	Review
174	Baba Y, Kosumi K, Baba H.	消化器外科学	Comments on "The Complexity of Defining Postoperative Pneumonia Following Esophageal Cancer Surgery: A Spectrum of Lung Injury Rather Than a Simple Infective Complication?"	Ann Surg 274:e895-e896, 2021 Dec	Others
175	Maruno M, Imai K, Nakao Y, et al.	消化器外科学	Multiple hepatic inflammatory pseudotumors with elevated alpha- fetoprotein and alpha-fetoprotein lectin 3 fraction with various PET accumulations: a case report.	Surg Case Rep 7:107, 2021 Apr	Case report

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
176	Ono A, Kitano Y, Imai K, et al.	消化器外科学	A case of primary nonleukemic myeloid sarcoma of the spleen, successfully treated by surgery and hematopoietic stem cell transplantation.	Surg Case Rep 7:180, 2021 Aug	Case report
177	Sawayama H, Miyamoto Y, Hiyoshi Y, et al.	消化器外科学	Overall survival after recurrence in stage I-III colorectal cancer patients in accordance with the recurrence organ site and pattern.	Ann Gastroenterol Surg 5:813-822, 2021 Jul	Original Article
178	Mima K, Miyanari N, Kosumi K, et al.	消化器外科学	The efficacy of adjuvant chemotherapy for resected high-risk stage II and stage III colorectal cancer in frail patients.	Int J Clin Oncol 26:903-912, 2021 May	Original Article
179	Yamashita YI, Yamamoto H, Miyata H, et al.	消化器外科学	Risk factors for bile leakage: Latest analysis of 10 102 hepatectomies for hepatocellular carcinoma from the Japanese national clinical database.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 28:556-562, 2021 Jul	Original Article
180	Morito A, Nakagawa S, Imai K, et al.	消化器外科学	Successful surgical rescue of delayed onset diaphragmatic hernia following radiofrequency ablation using a thoracoscopic approach for hepatocellular carcinoma: a case report.	Surg Case Rep 7:130, 2021 May	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
181	Mima K, Kosumi K, Miyanari N, et al.	消化器外科学	Impairment of Activities of Daily Living is an Independent Risk Factor for Recurrence and Mortality Following Curative Resection of Stage I-III Colorectal Cancer.	J Gastrointest Surg 25:2628-2636, 2021 Oct	Original Article
182	Yoshida N, Taniyama Y, Murakami K, et al.	消化器外科学	Novel Criterion Using Esophageal Major and Minor Axes is Useful to Evaluate the Therapeutic Effect and Prognosis After Neoadjuvant Chemotherapy Followed by Surgery in Locally Advanced Esophageal Cancer.	Ann Surg Oncol 28:8474- 8482, 2021 Dec	Others
183	Kitano Y, Pietrasz D, Fernandez- Sevilla E, et al.	消化器外科学	Subjective Difficulty Scale in Liver Transplantation: A Prospective Observational Study.	Transpl Int 35:10308, 2022 Mar	Others
184	Kaida T, Hayashi H, Sato H, et al.	消化器外科学	Assessment for the minimal invasiveness of laparoscopic liver resection by interleukin-6 and thrombospondin-1.	World J Hepatol 14:234- 243, 2022 Jan	Original Article
185	Nakamura K, Eto K, Iwagami S, et al.	消化器外科学	Clinicopathological characteristics and prognosis of poorly cohesive cell subtype of gastric cancer.	Int J Clin Oncol 27:512- 519, 2022 Mar	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
186	Nomoto D, Baba Y, Okadome K, et al.	消化器外科学	Prognostic Impact of PD-1 on Tumor-Infiltrating Lymphocytes in 433 Resected Esophageal Cancers.	Ann Thorac Surg 113:286-294, 2022 Jan	Original Article
187	Yusa T, Yamashita YI, Nitta H, et al.	消化器外科学	Efficacy of Ring Drape and Unused Sterile Instruments for Incisional SSI After Hepatectomy.	Anticancer Res 42:1007-1012, 2022 Feb	Original Article
188	Miyata T, Hayashi H, Baba H.	消化器外科学	ASO Author Reflections: Is Histologic Liver Inflammation a Predictor in Patients with Hepatocellular Carcinoma after Hepatectomy?	Ann Surg Oncol 29:903-904, 2022 Feb	Others
189	Sawayama H, Miyamoto Y, Yoshida N, et al.	消化器外科学	Essential updates 2020/2021: Colorectal diseases (benign)-Current topics in the surgical and medical treatment of benign colorectal diseases.	Ann Gastroenterol Surg 6:321-335, 2022 Jan	Review
190	Eto K, Yoshida N, Iwatsuki M, et al.	消化器外科学	Impact of Type of Gastrectomy on Death from Pneumonia in Elderly Patients with Gastric Cancer Over the Long Term.	World J Surg 46:425-432, 2022 Feb	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
191	Yamane T, Sawayama H, Yoshida N, et al.	消化器外科学	Preoperative transferrin level is a novel indicator of short- and long-term outcomes after esophageal cancer surgery.	Int J Clin Oncol 27:131- 140, 2022 Jan	Original Article
192	Arima K, Komohara Y, Uchihara T, et al.	消化器外科学	A Case of Mesenteric Desmoid Tumor Causing Bowel Obstruction After Laparoscopic Surgery.	Anticancer Res 42:381- 384, 2022 Jan	Case report
193	Yoshida N, Eto K, Baba H.	消化器外科学	ASO Author Reflections: Development of Useful Predictive Markers for Postoperative Morbidity Aiming to Improve Short-Term and Long-Term Outcomes After Esophageal Cancer Surgery.	Ann Surg Oncol 29:614- 615, 2022 Jan	Others
194	Okadome K, Baba Y, Yasuda- Yoshihara N, et al.	消化器外科学	PD-L1 and PD-L2 expression status in relation to chemotherapy in primary and metastatic esophageal squamous cell carcinoma.	Cancer Sci 113:399-410, 2022 Feb	Original Article
195	Masuda T, Takamori H, Ogawa K, et al.	消化器外科学	C-reactive protein level on postoperative day 3 as a predictor of anastomotic leakage after elective right- sided colectomy.	Surg Today 52:337-343, 2022 Feb	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
196	Miyata T, Hayashi H, Yamashita YI, et al.	消化器外科学	The Impact of Histologic Liver Inflammation on Oncology and the Prognosis of Patients Undergoing Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma.	Ann Surg Oncol 29:893- 902, 2022 Feb	Original Article
197	Yumoto S, Doi K, Higashi T, et al.	消化器外科学	Intra-abdominal bleeding caused by amyloid transthyretin amyloidosis in the gastrointestinal tract: a case report.	Clin J Gastroenterol 15:140-145, 2022 Feb	Case report
198	Horino T, Tokunaga R, Miyamoto Y, et al.	消化器外科学	The advanced lung cancer inflammation index is a novel independent prognosticator in colorectal cancer patients after curative resection.	Ann Gastroenterol Surg 6:83-91, 2021 Sep	Original Article
199	Yamane T, Yoshida N, Horinouchi T, et al.	消化器外科学	Minimally invasive esophagectomy may contribute to low incidence of postoperative surgical site infection in patients with poor glycemic control.	Langenbecks Arch Surg 407:579-585, 2022 Mar	Original Article
200	Kitano Y, Yamashita YI, Matsumoto T, et al.	消化器外科学	Survival Impact of Perioperative Red Blood Cell Transfusion During Pancreatectomy in Patients With Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Propensity Score Matching Analysis.	Pancreas 51:200-204, 2022 Feb	Original Article

小計 5

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
201	Iwatsuki M, Orita H, Kobayashi K, et al.	消化器外科学	Phase II study of S-1 and oxaliplatin as neoadjuvant chemotherapy for locally advanced adenocarcinoma of the gastric or esophagogastric junction: KSCC1601.	Gastric Cancer 25:180- 187, 2022 Jan	Others
202	Miyata T, Yamashita YI, Arima K, et al.	消化器外科学	Alteration of prognostic efficacy of albumin-bilirubin grade and Child- Pugh score according to liver fibrosis in hepatocellular carcinoma patients with Child-Pugh A following hepatectomy.	Ann Gastroenterol Surg 6:127-134, 2021 Sep	Original Article
203	Yoshida N, Horinouchi T, Toihata T, et al.	消化器外科学	Clinical Significance of Pretreatment Red Blood Cell Distribution Width as a Predictive Marker for Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Retrospective Study.	Ann Surg Oncol 29:606- 613, 2022 Jan	Original Article
204	Matsumoto C, Iwatsuki M, Iwagami S, et al.	消化器外科学	Prophylactic laparoscopic total gastrectomy for gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach (GAPPS): the first report in Asia.	Gastric Cancer 25:473- 478, 2022 Mar	Case report

小計 4 計 204件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	-----------------------	----	---------------	------

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirosev M., Sakata S., Taiyo Komatsu T.	呼吸器内科	ロルラチニブの減量 隔日投与が奏効した 高齢者ALK陽性非小 細胞肺癌の1例.	肺癌. 2021年8月; 61 (4): 336-341.	Case report
2	Masuda Y., Iyama S., Ishizuka S.	呼吸器内科	硬膜転移による視力 障害を認めた進行性 非小細胞肺癌の1例.	肺癌. 2021年10 月;61(5):423-428.	Case report
3	Narahara S, Nagaoka K, Tateyama M	消化器内科	多次化学療法を施行 した原発性肝平滑筋 肉腫の一例	日本肝臓学会学会誌 肝 臓 2021年9月 538	Case report
4	Nakamura T, Yasunaga JI, Yokoo K	血液・膠原病・感染症内科	HTLV-1 bZIP factor を標的としたRNA in situ hybridizationが 診断に有用であった 成人T細胞白血病/リ ンパ腫	臨床血液 2022年3月 63(2):89-93	Case report
5	Matsunaga A, Nakamura K, Inoue H, et al.	腎臓内科	血漿交換を行うも救 命しえず剖検に至っ た血栓性血小板減少 性紫斑病の1例	日本透析医学会誌 2022 Jan; 55(1): 41-47.	Case report
6	岡田 匡充, 稲富 雄一郎, 植田 光晴	脳神経内科	Ross症候群	Clinical Neuroscience 39: 642, 2021年5月	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
7	植田 光晴	脳神経内科	遺伝性ATTRアミロイドーシス 脳神経内科疾患—実地医家が知るべき現場対応から最新治療までを網羅する—.	Medical Practice 38: 1859-1864, 2021年12月	Review
8	植田 光晴	脳神経内科	遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシス治療の現状と展望.	神経治療学 38: 370-373, 2022年1月	Review
9	Hitota T, Sadanaga T, Takaki J	心臓血管外科	重症再生不良性貧血を合併した不安定狭心症に対し人工心肺非使用冠動脈バイパス術を施行した一例	心臓. 202;53:1213-1219 2021年9月	Case report
10	Yoshinaga T, Hirota T, Sadanaga T	心臓血管外科	左心耳閉鎖デバイスによる左心耳穿孔に対し緊急手術を施行した一例	日本心臓血管外科学会雑誌. 2021 11月;50:374-377	Case report
11	Araki N, Takaki J, Nishigawa K	心臓血管外科	6分間歩行距離を指標とした心拍動下冠動脈バイパス術後回復に影響を及ぼす因子の検討	日本心臓リハビリテーション学会雑誌 2021年11月	Original Article
12	Suzuki.M	呼吸器外科	比較的まれな左上葉感染性結節—胸腔鏡か開胸か—	胸部外科74巻7号:528~532.2021年7月	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
13	Ibe Y, Yamaguchi T, Yamanaka K.	泌尿器科	17年間長期自然史を 経た腎オンコサイトー マの1例	西日本泌尿器科. 2021年 12月;84(2):201-206.	Case report
14	Yamanaka K, Yamaguchi T, Kurahashi R.	泌尿器科	集学的治療により完 全寛解を得た難治性 非セミノーマ精巣腫 瘍(後腹膜リンパ節、 肝、肺、脳転移)の1 例	泌尿紀要. 2021年9 月;67(9):433-437.	Case report
15	Nishimura A, Motohara T, Iwagoe Y	産婦人科	手術前に留意すべき 健康補助食品の取り 扱い:「ニンニク」ある いは「ナットウキナー ゼ」を術前摂取してい た婦人科症例を経験 して	日本婦人科腫瘍学会雑誌 2021年4月, 65: 573-580	Case report
16	Nakamura S, Yamaguchi M, Sakaguchi M	産婦人科	妊娠中のリンパ球性 下垂体前葉炎におり 可逆性の視野障害を 呈し、分娩後に橋本 病が判明した一例	熊本産科婦人科学会雑誌 2022年3月, 66: 27-31	Case report
17	宮本 英明,福 島 聡,田中 健太郎	皮膚科・形成再建科	消化器がん治療にお ける免疫チェックポイ ント阻害剤の現状と 課題 当院における免 疫関連有害事象の経 験	日本消化器病学会九州支 部例会・日本消化器内視 鏡学会九州支部例会プ ログラム・抄録集2021年12 月、87-87	Case report
18	島田 佳奈子, 牧野 雄成,青 井 淳	皮膚科・形成再建科	集学的治療により救 命しえた抗RNAポリメ ラーゼIII抗体陽性全 身性強皮症腎クリー ゼの1例	西日本皮膚科、2021年10 月、83(5)465-465	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
19	島田 佳奈子, 本多 教稔, 柏 田 香代	皮膚科・形成再建科	妊娠中に増悪した汎 発性膿疱性乾癬の1 例	西日本皮膚科、2021年10 月、83(5)468-468	Case report
20	草場 雄道, 牧 野 貴充, 牧野 雄成	皮膚科・形成再建科	DPP4阻害薬内服中 の筋萎縮性側索硬化 症患者に生じた水疱 性類天疱瘡の1例	西日本皮膚科、2021年10 月、83(5)470-470	Case report
21	古荘 晶子, 金 丸 央, 水上 裕加里	皮膚科・形成再建科	BRAF遺伝子変異陽 性の原発不明悪性黒 色腫の1例	西日本皮膚科、2021年10 月、83(5)471-471	Case report
22	島田 佳奈子, 牧野 雄成, 青 井 淳	皮膚科・形成再建科	集学的治療により救 命しえた抗RNAポリメ ラーゼIII抗体陽性全 身性強皮症腎クリー ゼの1例	西日本皮膚科、2021年10 月、83(5)465-465	Case report
23	島田 佳奈子, 本多 教稔, 柏 田 香代	皮膚科・形成再建科	妊娠中に増悪した汎 発性膿疱性乾癬の1 例	西日本皮膚科、2021年10 月、83(5)468-468	Case report
24	Iwashita K, Kei-Ichi N, Inoue T	眼科	カフクデュアルブ レードを用いた線維 柱帯切開術後に視神 経乳頭陥凹縮小を認 めた成人の開放隅角 緑内障の1症例	あたらしい眼科 2021. Jun; 38: 714-8	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
25	宮丸悟・志茂 田裕・西本康 兵 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	内視鏡下に一塊に摘出したHuman Papillomavirus-related multiphenotypic sinonasal carcinoma 例	日本鼻科学会会誌 2021.12 P531-537	Case report
26	藤山 菜摘, 余湖 直紀, 片岡 菜摘, 西原 卓宏, 川原 健太, 廣末 晃之, 長峯 理子, 武藤 雄一郎, 平井 克樹, 右田 昌宏	小児科	Mycobacterium fortuitum感染による小児下顎骨髄炎	日本小児科学会雑誌 2021年4月;125:625-630	Case report
27	大塚ゆかり、 松本志郎、黒 澤茶々、谷田 理一郎、小田 原美和、城戸 淳、田仲健 一、坂本理恵 子、三淵浩、 中村公俊	小児科	地域の基盤を活用したZellweger症候群の監事における在宅緩和ケア	日本先天代謝異常学会雑誌 2021年9月; 37(1)	Original Article
28	Takahashi Nozomu、 Hirosue Akiyuki、 Murahashi Yuki	歯科口腔外科学講座	舌癌術後に頸部リンパ節転移が疑われたRosai-Dorfman病の1例	日本口腔外科学会雑誌 67(5), 303-308, 2021.	Case report
29	Miyako.K, Fujise.N, Fukuhara.R	神経精神科	反復性うつ病の経過中にレビー小体型認知症が疑われ、電気けいれん療法および薬物療法で長期寛解状態が維持されている1例.	精神医学, 63(11);1739-1744, 2021年11月	Original Article
30	Kumamoto T, Uemura J, Hiraoka C	麻酔科	経カテーテル大動脈弁留置術とminimally invasive cardiac surgeryに対する末梢神経ブロック	日本臨床麻酔学会誌 (0285-4945)41巻5号 Page469-474(2021.09)	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Kumamoto T, Nonaka T, Hiraoka C	麻酔科	心臓血管麻酔におけるデブリーフィング教育の現状とマニュアル導入が麻酔業務時間に及ぼす影響	日本臨床麻酔学会誌 (0285-4945)41巻5号 Page429-436(2021.09)	Case report
32	Matsubara M, Kumamoto T, Hiraoka C	麻酔科	オキシメトリー中心静脈カテーテルが不全断裂を来した症例	Cardiovascular Anesthesia (1342-9132)25巻1号 Page113-117(2021.09)	Case report
33	Kumamoto T, Uemura Y, Hiraoka C	麻酔科	抗リン脂質抗体症候群患者に対する弁置換術の麻酔経験	Cardiovascular Anesthesia (1342-9132)25巻1号 Page107-112(2021.09)	Case report
34	Hiraoka C, Kumamoto T, Nonaka T	麻酔科	妊娠中に発症した感染性心内膜炎に対して帝王切開術後に僧帽弁置換術を施行した症例	Cardiovascular Anesthesia (1342-9132)25巻1号 Page101-106(2021.09)	Case report
35	Yamada T, Komatsu S, Suzaki S	麻酔科	慢性膵炎による上腹部痛に対するモルヒネ塩酸錠が断薬に至った1例	日本ペインクリニック学会誌 (1340-4903)28巻6号 Page144-145(2021.06)	Case report
36	Yuichi Takaki,Masahiro Hashida,Masanori Komi,	医療技術部診療放射線技術部門	Balanced steady-state free precessionにおけるバンディングアーチファクトを用いた脂肪抑制不良域の推定	日本放射線技術学会雑誌 2021年10月.Vol.77 No.10 1186-1195	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
37	笠岡俊志、内藤久貴	災害医療教育研究センター	熊本地震の経験を災害医療教育に活かす	九州救急医学雑誌 21: 39-40 2021年12月	Letter
38	内藤久貴、山添淳一、池田初男、他	災害医療教育研究センター	災害医療における歯科の役割と多職種連携教育の重要性	九州救急医学雑誌 21: 35-38 2021年12月	Others
39	Yoshihiro Ikuta	中央手術部	手術部業務継続に必要なことは？	日本手術医学会誌. 2021 June; 42: 205-209	Others
40	Yoshihiro Ikuta	中央手術部	手術部における業務継続	日本手術医学会誌. 2021 Oct; 42: 234-238	Original Article
41	Oda K, Matsushita K, Unoki J	薬剤部	ナルフラフィン口腔内崩壊フィルム剤の製剤学的特性の評価	医療薬学 2022年1月 48(1), 53-58,	Original Article
42	Kondo S, Oda K, Katanoda T,	薬剤部	血清トラフ濃度25 μ g/mLを目標としたテイコプラニン維持投与量に関する後方視的検討	TDM研究 2022年3月1日 39(1), 9-16	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
43	Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H	消化器外科学	高齢者に対する術前 リハビリテーションに よる骨格筋量・腸内 細菌の変化に関する 網羅的解析	大和証券ヘルス財団研究 業績集45号 Page128- 134(2022.03)	Original Article
44	Baba Y, Baba H	消化器外科学	【Corona禍で大きく変 わった学術活動、 After Coronaでどう舵 を切るか】アーカイブ 配信による発表 ここ が良い、ここが問題	日本外科学会雑誌(0301- 4894)123巻2号 Page165- 168(2022.03)	Review
45	Ono A, Nakamura K, Hara Y	消化器外科学	後腹膜に発生し胸腹 部大動脈合併切除を 要したmalignant gastrointestinal neuroectodermal tumorの1例	手術(0037-4423)75巻10 号 Page1617- 1623(2021.09)	Original Article
46	Adachi Y, Hayashi H, Higashi T	消化器外科学	術中下大静脈損傷に 対してIVR併用手術 によるリカバリーショッ トが奏効した1例	手術(0037-4423)75巻8号 Page1359-1363(2021.07)	Original Article
47	Hayashi N, Honda M, Miyamoto H	消化器外科学	食道ステント断裂片 の十二指腸内脱落に より胆管炎・胆嚢炎を 併発した噴門狭窄を 伴う高齢者進行胃癌 の1例	日本腹部救急医学会雑誌 (1340-2242)41巻4号 Page273-276(2021.05)	Original Article
48	Baba Y, Baba H	消化器外科学	【消化器疾患と腸内 細菌叢の関わり-臨床 的意義と治療への影 響-】食道がんの進展 と腸内細菌叢	Progress in Medicine(0287-3648)42巻 3号 Page243- 246(2022.03)	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
49	Nagai Y, Shigaki H, Yamase J	消化器外科学	資源の集中と地域医療 地域がん医療需要の特徴とくまもとメディカルネットワークを用いた消化器外科連携診療の実践	日本外科学会雑誌(0301-4894)122巻6号 Page695-698(2021.11)	Review
50	Yamashita YI, Hayashi H, Baba H	消化器外科学	治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 原発性肝癌(肝内胆管癌)	日本医事新報(0385-9215)5093号 Page40(2021.12)	Review
51	Hayashi H, Nakagawa S, Baba H	消化器外科学	【膵臓外科の基本手術2021-修練医がマスターすべき術式とは】膵体尾部癌に対する腹腔鏡下膵体尾部切除のポイント 腹腔鏡下posterior RAMPS法	手術(0037-4423)75巻9号 Page1429-1438(2021.08)	Review
52	Toihata T, Nakamura K, Baba H	消化器外科学	【ゆる〜く、でもちゃんと学びたいナースのための31の消化器手術&治療 ヒーローずかん〜治療とケアの要”をおさえて患者さんを守れ!〜】食道・胃の治療 ヒーローずかん”	消化器ナーシング(2434-4575)26巻7号 Page598-615(2021.07)	Review
53	Kitano Y, Imai K, Baba H	消化器外科学	【大腸癌肝転移の治療戦略の再考】大腸癌肝転移に対するRFAの今後の位置づけ	外科(0016-593X)83巻6号 Page708-715(2021.05)	Review
54	Kato R, Sawayama H, Baba H	消化器外科学	【消化器癌;診断と治療のすべて】消化器癌の診断・病期分類・治療・成績 結腸癌疫学と病期分類	消化器外科(0387-2645)44巻6号 Page725-729(2021.05)	Review

小計 6 計 54件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の主な内容・ 研究者、研究責任者、研究部長及び病院長の責務・ 人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査申請の受付から審査までの業務手順・ 研究開始から終了に係る業務手順・ 研究の倫理、研究実施に必要な知識および技術に関する教育・研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 規定の主な内容 熊本大学大学院生命科学研究部等臨床研究利益相反審査委員会の設置 臨床研究にかかる利益相反申告書の提出 委員会による審査結果、指導・勧告、異議申し立て、情報開示	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年691回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
-----------------------	-----

・研修の主な内容

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の制定について

新指針施行後の倫理審査申請手続きについて

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none">・ 英語論文の抄読会・ 新患カンファレンス・ 手術カンファレンス・ 病理カンファレンス・ 画像診断カンファレンス・ リサーチカンファレンス・ 症例検討会・ 実習トレーニング・ スキルアップセミナー・ 各種勉強会・ 教員レクチャー など

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	191.917人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
坂上 拓郎	呼吸器内科	教授	24年	
田中 靖人	消化器内科	教授	30年	
松岡 雅雄	血液内科	教授	39年	
松岡 雅雄	膠原病内科	教授	39年	
向山 政志	腎臓内科	教授	38年	
荒木 栄一	糖尿病・代謝・ 内分泌内科	教授	38年	
辻田 賢一	循環器内科	教授	23年	
植田 光晴	脳神経内科	教授	22年	
福井 寿啓	心臓血管外科	教授	27年	
鈴木 実	呼吸器外科	教授	32年	
山下 洋市	消化器外科	准教授	25年	
山本 豊	乳腺・内分泌外 科	准教授	30年	
日比 泰造	小児外科	教授	23年	
日比 泰造	移植外科	教授	23年	
神波 大己	泌尿器科	教授	29年	
近藤 英治	婦人科	教授	23年	
中村 公俊	小児科	教授	31年	
近藤 英治	産科	教授	23年	
宮本 健史	整形外科	教授	33年	
福島 聡	皮膚科	准教授	23年	
井上 俊洋	眼科	教授	24年	

折田 頼尚	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	25年	
中山 秀樹	歯科口腔外科	教授	25年	
平井 俊範	画像診断・治療科	教授	32年	
大屋 夏生	放射線治療科	教授	34年	
竹林 実	神経精神科	教授	29年	
武笠 晃丈	脳神経外科	教授	27年	
山本 達郎	麻酔科	教授	39年	
松岡 政雄	中央検査部	教授	39年	
入江 弘基	救急部	教授	26年	
三上 芳喜	病理部	教授	31年	
松岡 雅雄	感染免疫診療部	教授	39年	
宮本 健史	リハビリテーション部	教授	33年	
松井 邦彦	地域医療・総合診療実践学寄附講座（地域医療支援センター）	教授・センター長	32年	総合診療

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>【薬剤部】 職員研修を目的として、定期的に①「薬剤管理指導検討会」及び②「ICU, TDM, ASTに関するon the job training」③「新薬説明会」、また、不定期に④「くすりの勉強会」を開催している。</p> <p>【看護部】 教育理念・教育方針のもと、毎年院内教育計画を策定し、実施している。</p> <p>【中央検査部】 特定機能病院として高度な臨床検査体制を構築するため、別紙の研修を実施しており、臨床検査の精度保証の向上に努めている。</p> <p>【ME 機器センター】 特定機能病院として、医療機器使用を伴う高度な診療や検査等に対応できるよう、研修を実施している。</p> <p>【中央放射線部】 特定機能病院としての高度な救急医療や高精度な放射線治療に対応できるよう、研修を実施している。</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>【薬剤部】 別紙（1）のとおり</p> <p>【看護部】 別紙（2）のとおり</p> <p>【中央検査部】 別紙（3）のとおり</p> <p>【ME 機器センター】 別紙（4）のとおり</p> <p>【中央放射線部】 別紙（5）のとおり</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容・・・「個人情報保護」、「院内感染対策」、「医療安全管理」及び「医療機器の安全な使用について」について、医療業務に携わる上で、各職員が必ず習得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知徹底させる</p> <p>・研修の期間・実施回数・・・令和3年4月1日(木) 外</p> <p>※採用者があり次第、随時実施</p>

・研修の参加人数・・・275名

(内訳：4月1日採用者95名、中途採用者99名、復職者81名)

※令和3年度実績

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修
令和3年度の実績

【薬剤部】

研 修 名	期 間	実施回数	参加人員	備 考
①薬剤管理指導検討会	毎月1回1時間程度	10回	平均 40.5名	
②ICU, TDM, ASTに関するon the job training	毎月1回15分程度	5回	平均 11.6名	
③新薬説明会	月に2-3日(1日3回に分けて20分ずつ)	26回	平均 33.0名	
④くすりの勉強会	必要に応じ開催(1~2時間)	3回	平均 16.7名	

2021年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
基礎研修	新規採用者オリエンテーション	2021年度新規採用者 2020年度中途採用者 (2021年4月採用者)	病院・看護部の組織と機能を学び、看護師としての心構えを習得できる	病院・看護部の組織・方針、院内感染対策、医療安全管理、個人情報、医療機器の取り扱い、接遇、院内教育、医療情報システムの中の看護記録、中央部門の看護関連部門	講義 e-ラーニング	4/1(木)～4/7(水)	看護部 医療の質・安全管理部 感染制御部 医療技術部門長 事務職員 看護教育支援室 中央部門看護師長	医学総合研究棟3階講習室 東病棟12階多目的ホール	54人	25時間15分
	社会人としての基本姿勢とコミュニケーションI	2021年度新規採用看護師	1)社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2)社会人として「報告・連絡・相談」を実施できる 3)組織における役割、心構えを理解する	組織における役割・心構えコミュニケーションの取り方 接遇	講義 ディスカッション	4/2(金) 10:00～12:00	看護教育支援室 牛島輝美看護師長	東病棟12階多目的ホール	52人	2時間
	メンタルヘルス研修	2021年度新規採用看護師	メンタルヘルスとは何かを知り、自身の心の健康状態に気づきストレスに対応できる	1)ストレスとメンタルヘルス不調 2)セルフケア(ストレス対処法、考え方のくせなど) 3)話すことの効果	講義	4/5(月) 8:30～9:30	熊本大学病院医療の質・安全管理部 臨床心理士 一美奈緒子先生	東病棟12階多目的ホール	53人	1時間
	現場における医療安全	2021年度新規採用者 2020年度中途採用者	医療安全管理に関する基本的な考え方を理解する	1)組織における医療安全 2)ダブルチェックの方法	講義	4/5(月) 13:30～15:30	熊本大学病院ゼネラル リスクマネージャー 田口由美子看護師長	東病棟12階多目的ホール	54人	2時間
	新人看護師のためのメンタルヘルス	2021年度新規採用看護師	メンタルヘルスとは何かを知り、自身の心の健康状態に気づきストレスに対応できる	1)職場における心の健康づくり 2)職場におけるメンタルヘルス対策	講義 リモート	4/6(火) 8:30～10:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階多目的ホール	52人	2時間
	看護倫理	2021年度新規採用看護師	看護者の倫理とは何かを理解し、日常の看護ケアの中で看護師としてどのように行動すべきかを学ぶ	1)看護者の倫理綱領 2)看護ケアにおける倫理的問題 実践事例の検討	講義	4/6(火) 10:40～12:40	がん看護専門看護師 岡本泰子看護師長	東病棟12階多目的ホール	54人	2時間
	感染対策基礎研修	2021年度新規採用看護師	感染対策の基本を理解し、感染予防のための手指衛生と个人防护具の着脱の実践ができる	1)院内感染対策の基本 2)標準予防策と感染経路別予防策 3)針刺し・血液体液曝露防止対策 4)医療廃棄物の分別方法・取り扱い方法 5)演習(个人防护具の着脱方法・手指消毒)	講義 演習 小テスト	4/7(水) 8:30～12:00	藤本陽子 手塚美奈 吉田真由美 感染管理認定看護師	東病棟12階多目的ホール	54人	3時間30分
	新規採用者PC研修	2021年度新規採用者	KAIJUの基本操作を学び、日常業務に活用できる	・KAIJUの基本操作 ・診療録参照のデモンストレーション ・操作演習 ・ガルーンの掲示板閲覧方法とメールの送受信方法	講義 演習	4/8(木) 部署ごとに設定した2時間前後	部署の看護情報リンク ナーズまたは指導可能な看護師	各部署	53名	2時間

2021年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
基礎研修	新規採用看護師基礎研修(注射与薬・輸液ポンプ)	2021年度新規採用看護師	1)注射与薬のプロセスを理解し、実践に活かす 2)輸液ポンプ・シリンジポンプの原理と使用方法を理解し、実践に活かす	注射与薬プロセスおよび輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法	講義 演習	4/10(土) 8:00~16:45	各部署の副看護師長 実地指導者 看護部安全対策委員会	東病棟12階多目的ホール 各部署演習室	52人	7時間45分
	看護記録基礎研修(STEP1)	2021年度新規採用者の新卒看護師	看護記録の意義を理解し観察した患者状態を記録できる	・看護記録の意義 ・バイタルサイン測定後の記録	e-ラーニング 演習	4/20(火)	川本宏行看護師長 看護情報委員	各部署	46人	1時間
	糖尿病看護基礎研修	2021年度採用看護師(任期付看護師除く)	糖尿病に対する知識・技術を身につけ、安全な看護が提供できる	・糖尿病とは ・インスリン療法の基礎知識 ・糖尿病治療薬について ・糖尿病看護とリスクマネージメント ・実技演習	講義 演習	4/23(木) 全体講義 8:30~10:00 演習 10:10~11:20 11:30~12:40 13:00~14:10 いずれかの時間に参加	藤本美枝糖尿病看護認定看護師 日本糖尿病療養指導士13名	東病棟12階多目的ホール・患者多目的室・セミナー室2・セミナー室3	52人	2時間40分
	心電図モニタ基礎研修	2021年度 新規採用看護師	心電図モニタ使用時の取り決めと安全管理について理解できる	1)セントラルモニターとベットサイドモニター、送信機について 2)心電図モニターとナースコールの連動について 3)心電図モニター装着時の取り決めについて 4)心電図モニター装着中の管理について	e-ラーニング 演習	5/10(月)~ 5/31(月) 各部署で2時間	医療技術部ME機器技術部門 臨床工学技士 山下 大輔 看護部安全リンクナース	各部署	52人	2時間
	IV基礎研修	2021年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	・安全な静脈注射を実施するための知識、基本的な技術・態度を習得する ・本院の静脈注射実施基準を理解し、倫理的側面を考慮した行動がわかる ・静脈注射に必要な薬理作用・解剖生理を理解し実践にいかすことができる ・静脈注射に必要な安全・感染管理の知識を習得し、実践に活用できる ・緊急時の報告・連絡ができる	・静脈注射実施基準と法的責任・教育計画 ・静脈注射に必要な解剖・生理 ・看護師に必要な薬理作用の基礎知識 ・静脈注射に必要な緊急時の看護 ・静脈注射に必要な感染管理 ・静脈注射に必要な安全管理	e-ラーニング 講義 筆記試験	6/3(木) 9:00~15:40	脳神経内科 植田明彦先生 薬学部部長 齋藤秀之先生 業務委員会 感染管理認定看護師 藤本陽子看護師長 医療の室・安全管理部 GRM 森山嘉子看護師長 救急看護認定看護師 村上志穂副看護師長	東病棟12階多目的ホール	53人	5時間40分
	PNS研修	2021年度新規採用看護師	1)PNS場面におけるロールプレイを通して、PNSの意義、マインドを理解できる 2)自己の行動を振り返り、看護実践に活用できる	PNSの気付き、事例を通して気になった場面を検討する 自己の行動を考える	動画視聴 講義 GW	6/17(木) 13:00~14:10	教育担当副看護師長 PNSグループ	東病棟12階多目的ホール	53人	1時間10分

2021年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
社会人としての基本姿勢とコミュニケーションII	2021年度新規採用看護師	1)社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2)社会人として「報告・連絡・相談」を実施できる 3)組織における役割、心構えを理解する	「看護職としての社会人基礎力とは」 「看護部理念をふまえた社会人としての基本姿勢について」	講義 GW	6/17(木) 14:10～15:35	看護教育支援室 牛島輝美看護師長	東病棟12階多目的ホール	52人	1時間25分
新人ピアカウンセリング研修	2021年度新規採用看護師	ピアカウンセリングにより アリティショックを緩和する	・3ヶ月間の振り返り ・気持ちの共有	GW	6/17(木) 15:40～16:45	教育委員	東病棟12階多目的ホール	51人	1時間5分
看護記録基礎研修「情報収集の仕方と整理(ステップII)」	2021年度新規採用看護師	看護過程の概念を学び、 NANDA-Iの13領域にそった 情報収集と整理ができる	・看護過程とは ・NANDA-Iの13領域にそった情 報収集と整理 ・グループワーク(ペーパーペイ シメント事例を用いた情報の整 理)	講義 GW	7/19(月) 13:00～16:45	川本宏行看護師長(看 護情報委員会)	東病棟12階多目的ホール	46人	3時間45分
フィジカルアセスメント基礎研修 /BLS研修	2021年度新規採用看護師	・フィジカルアセスメント基 礎研修 1)フィジカルイグザミネー ション技術を修得し正常と 異常のアセスメントができる 2)呼吸・循環・意識・腹部 のフィジカルアセスメントに 必要な知識を学ぶ ・BLS研修 1)一次救命処置の概要を 理解し技術を修得する 2)AEDを正しく理解し、使 用できる	・フィジカルアセスメント基礎研修 1)問診・視診・触診・聴診に必要 な講義 2)フィジカルイグザミネーション技 術の演習 3)シミュレーションを活用した正常 と異常の判断 ・BLS研修 1)BLS・AEDに関する講義 2)シミュレーターを使用しBLS・ AEDの演習	講義 演習 GW	8/27(金) 8/30(月) 8/31(火) (※いずれか1 日に参加) 8:00～16:45	集中ケア認定看護師 田中貴子副看護師長 救急看護認定看護師 村上志穂副看護師長	中央診療棟7階 総合臨床 研修センターカンファレンス 室・演習室	8/27: 17人 8/30: 16人 8/31: 16人	7時間45分
新人研修「看護の中の気づき～患 者から学ぶ～」	2021年度新規採用看護師	事例の振り返りやグループ ディスカッションを通して、 自己の課題を明確にし、 看護実践に活かせる	・看護とは ・事例を通しての看護の振り返り ・グループディスカッション	講義 GW	11/27(土) 9:00～13:00	聖マリアンナ学院大学 教授 日高艶子先生 グループワークファシリ テーター:教育担当副 看護師長、教育委員	東病棟12階多目的ホール・患 者多目的室・セミナー室2・ 中央診療棟7階カンファレンス 室・演習室(1～9)・シミュレ ーション室1	44人	4時間
看護OSCE	2021年度新規採用看護師	基本的臨床実践能力を客 観的に評価し、自己の課 題を明確にする	設定した模擬患者で課題を実施 し、評価を受ける	OSCE(客観的臨 床能力試験)	2022年1/24 (月)～1/28日 (金) 9:30～16:00	教育委員会が評価表に 基づいて行う	中央診療棟7階 演習室4～6、シミュレーショ ン室1	43人	30分
新人看護師・助産師のスキルアッ プ研修	2021年度新卒看護 師・助産師	・2年目の看護職として必要 とされる看護を自立的に 判断し行動に移すことが 出来るようになる ・専門職業人として自分の 課題を認識し課題に取り 組むことができるようになる	・1年間の自分の看護業務、看護 ケアの展開について実施できたこ とを明確にする ・2年目の看護師として必要とされ る判断と行為を明確にする ・自分の課題に気づき、課題に取り 組むことができる ・2年目の看護師としてのニーズ、 目標を明確にする	講義 GW	2022年2/17 (木) 10:00～12:00	四天王寺大学看護学 部 看護実践開発研究 センター 教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階多目的ホール	40人	2時間

基礎研修

2021年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
リーダーⅠ	がん看護(基礎編)	レベルⅠ以上	がん看護の基礎的知識を理解し、実践に活かすことができる	・緩和ケア ・がん性疼痛看護 ・がん薬物療法看護 ・がん放射線療法看護 ・がん患者におけるコミュニケーション	講義 ロールプレイ	7/16(金) 8:30～15:45	がん看護専門看護師 岡本泰子 がん看護専門看護師 石坂暁子 緩和ケア認定看護師 内田新 がん性疼痛看護認定看護師 前田望花	東病棟12階 多目的ホール	31人	6時間15分
	看護過程研修	レベルⅠ以上	看護過程を理解し、事例を展開することができる	・NANDA13領域の各項目の意義、情報収集、アセスメントについて ・看護過程について	講義 GW	10/15(金) 9:00～16:00	熊本大学大学院生命科学研究部 准教授 松本智晴先生	東病棟12階 多目的ホール	45人	6時間
	急変時の対応	レベルⅠ	1)急変対応に必要な知識とスキルを修得する 2)急変対応時のコミュニケーション、チームワークの必要性について理解し行動できる 3)緊急性と優先度の判断が理解できる	1)急変対応に必要な知識 2)スキルトレーニング 3)コミュニケーションとチームワークについて 4)シナリオトレーニング	講義 演習	R4/1/15(土) 午前:8:00～12:00 午後:13:00～17:00	救急・総合診療 入江弘基教授 救急認定看護師 村上志穂 集中ケア認定看護師 田中貴子	中央診療棟7階臨床研修センター カンファレンス室 演習室 シミュレーション室	41人	4時間
リーダーⅡ-1	プリセプター研修:6ヶ月	2021年度プリセプター	1)新人の半年間の成長度合いを評価し、今後の指導内容や方法を検討する 2)プリセプターの体験を通して自己の関わり方や自己成長を再確認する	1)新人看護師の特性、6ヶ月までの適応過程 2)新人の成長度合いの評価と今後の指導のあり方 3)自己の振り返りと指導者としての成長過程の確認	講義 GW	9/1(水) 8:30～11:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホール	34人	3時間
	看護管理	レベルⅡ-1	1)看護管理を理解し、部署の運営に参画できる 2)チームメンバーとして主体的に行動できる	1)看護管理とは 2)コンプライアンスとは	シャドウイング 講義 GW	9/10(金) 13:30～16:30	今村かおる副看護部長	東病棟12階 多目的ホール	41人	3時間
	がん看護(実践編)	レベルⅡ-1以上	がんやがんの治療に伴う症状へのケアについて理解し実践に活かすことができる	1)症状マネジメントとは 2)がんに伴う苦痛症状への看護ケア(がん性疼痛) 3)治療に伴う有害事象への看護ケア(がん化学療法) 4)がん看護における症状マネジメント(ISAM) 4)事例検討(グループワーク)	講義 GW	10/8(金) 8:30～16:30	がん看護専門看護師 安達美樹 緩和ケア認定看護師 高野いづみ がん性疼痛看護認定看護師 坂口まみ がん化学療法看護認定看護師 森奈緒美	東病棟12階多目的ホール	20人	7時間
	第28回事例研究発表会	レベルⅡ-1	1)事例研究の意義を理解し、発表を通じて研究的視点を習得する 2)看護理論を活用しながら、実践において個別的な看護展開を発揮する	・事例研究発表 ・事例討議	発表 検討	10/30(土) 8:00～11:45	座長及びファシリテーター 看護師長	管理棟3階第1会議室、中央診療棟7階カンファレンス室、東病棟12階多目的ホール・セミナー室2	45人	3時間45分

2021年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
ラダーⅡ-1 プリセプターシップ 研修	2022年度 実地指導者 (プリセプ ター)(レベ ルⅡ-1以 上) 新副看護師 長 副看護師長 の希望者	プリセプターシップについて理解し、実践する	1)プリセプターシップの概念 2)効果的な指導・教育技法 3)新人の特性・面接技法	講義 GW	R4/3/3(木) 12:30～16:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階多目的ホール	46人	4時間
看護研究基礎研修	レベルⅡ- 2以上	看護研究の基礎を学び、研究課題を明確にし て、研究に取り組むことができる	・研究概論 ・文献検索、文献レビュー ・文献検索の実際	講義 演習	5/28(金) 8:30～16:45	がん専門看護師 岡本泰子 安達美樹 石坂暁子 精神看護専門看護師 江田由美子 急性・重症患者看護専門看護師 吉里孝子	管理棟3階第一会議室、医療情報 パソコン室、東病棟12階多目的 ホール、患者多目的室	16人	7時間15分
フィジカルアッセ メント 指導者研修	レベルⅡ-2 以上	1)フィジカルアセスメントに必要なイグザミネー ション技術を向上させ、フィジカルアセスメント を確実に行う 2)指導の根拠を学ぶ	・敗血症を学ぶ ・事例を使用して得られたデータか ら正常と異常、緊急性を判断する ・フィジカルイグザミネーションと事 例統合	講義 演習 GW	6/29(火) 午前8:30～12:00 午後13:15～16: 45	集中ケア認定看護師 田中貴子 救急看護認定看護師 村上志穂	中央診療棟7階 カンファレンス ルーム・演習室	27人	3時間30分
療養支援研修	レベルⅡ-2 以上	1)患者・家族が安心して退院後の療養環境に 移行するための支援を学ぶ 2)退院調整の実際を在宅医療体制と介護保 険の観点から学び、看護実践に活かすことが できる	1)急性期病院における退院支援か ら在宅療養支援の現状について 2)病棟看護師が主体的に退院調 整に取り組むためには 3)在宅療養継続のための社会資源 活用・ケアマネジャーの役割の理 解 4)医療ソーシャルワーカーの役割と 看護師との連携について 5)熊本大学病院の地域連携の流 れ 6)事前学習した事例を用いてグ ループワーク	講義 GW	7/7(水) 9:00～16:45	在宅ケア移行支援研究所 所長 宇都宮宏子先生 地域医療連携センター 谷川徹也看護師長	東病棟12階多目的ホール	28人	6時間45分
療養支援フォロー アップ研修	レベルⅡ-2 以上 (7/7 の療養支援 研修を受講 した研修 生)	1)患者・家族が安心して退院後の療養環境に 移行するための支援を学ぶ 2)退院調整の実際を在宅医療体制と介護保 険の観点から学び、看護実践に活かすことが できる	1)急性期病院における退院支援か ら在宅療養支援の現状について 2)病棟看護師が主体的に退院調 整に取り組むためには 3)在宅療養継続のための社会資源 活用・ケアマネジャーの役割の理 解 4)医療ソーシャルワーカーの役割と 看護師との連携について	講義 GW	11/26(金) 9:00～16:45	在宅ケア移行支援研究所 所長 宇都宮宏子先生	東病棟12階 多目的ホール	26人	6時間45分

2021年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
リーダーⅡ・Ⅲ	中堅看護師としてのクリニカルリーダーシップとマネジメント研修	レベルⅡ-1もしくはⅡ-2かつ本年度の看護師経験年数4年目～7年目まで	1)中堅看護師として、リーダーシップを発揮するために必要な概念化能力を習得する 2)リーダーとしての対人能力(コミュニケーションスキル)を学び、実践に活かすことができる	1)業務マネジメント 2)対人関係マネジメント 3)問題発見型アプローチ	講義 GW	11/24(水) 8:30～12:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホール	22人	4時間
	臨地実習指導者研修	2021年度臨地実習指導者	1)臨地実習指導者の役割を理解し、効果的な実習指導を実践する 2)実習指導教員と協働し、実習指導を展開することができる	1)看護教育における臨地実習について 2)実習指導教員との情報交換会	講義 GW	6/25(金) 14:00～16:00	熊本大学大学院生命科学研究部 保健学科教授 前田ひとみ先生	東病棟12階 多目的ホール	22人	2時間
	災害看護研修	レベルⅡ-2以上	・災害看護の基礎と特殊性について理解する ・災害発生時の対応(役割)について理解する ・災害発生時の感染対策について理解する	・災害医療概論 ・災害看護に必要な基礎的事項 ・災害発生時の対応(院内災害対策マニュアルの確認) ・広域災害での医療支援活動 ・トリアージについて ・災害時における感染対策について(避難所でのクラスター対策)	講義	9/29(水) 13:00～16:45	災害医療教育研究センター長 笠岡俊志教授 救急看護認定看護師 村上志穂 感染制御部 感染管理認定看護師藤本陽子	東病棟12階多目的ホール	23人	3時間45分
	リーダー育成研修	レベルⅡ-2以上	リーダーに求められるマネジメントを習得することができる	1)組織で働くということ 2)「パートナーシップ・ナーシング・システム」は「パートナーシップ・マネジメント・システム」ということ 3)リーダーに求められる役割と仕事の管理方法 4)後輩への指導方法 5)ナレッジマネジメント 徹底現場主義 6)グループワーク	講義 GW	7/30(金) 8:30～12:30	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子先生	東病棟12階 多目的ホール	27人	4時間
	リーダー育成研修Ⅱ	リーダー育成研修を受講した研修生27人	1)各部署でのPNSにおける取り組みについて発表することができる 2)他部署での取り組みを参考にしながら自部署に活用することができる	研修での学びを活かした実践報告	パワーポイントを用いたプレゼンテーション	11/19(金) 8:30～12:00	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子先生	東病棟12階多目的ホール	27人	3時間30分
	臨床推論研修	レベルⅡ-2を取得後5年以内	ケアを決定するプロセスと根拠について理解し、看護が提供できる	臨床推論とは	講義 GW	12/3(金) 午前:8:30～12:00 午後:13:00～16:30	急性・重症患者看護専門看護師 吉里孝子看護師長	東病棟12階多目的ホール	22人	3時間30分
	家族看護	レベルⅡ-2以上	家族アセスメントに必要な基本的知識を身につけ、患者・家族への看護実践に活かすことができる	・家族看護の基本的な考え方 ・家族理解に必要な視点と基盤となる理論 ・家族看護介入 ・事例を用いた家族看護の展開 ・急性期病院での家族との関わり	講義 GW	12/13(月) 9:30～16:30	高知県立大学基礎看護学教授 瓜生浩子先生	東病棟12階 多目的ホール	24人	6時間

2021年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
ラダーⅡ・Ⅲ	事例検討 (ロイ看護論)	ラダーレベルⅢ相当の看護師 看護過程に看護理論を活用できる 1)ロイの看護理論をもとに看護を展開し事例にまとめることができる 2)看護実践における論理的思考ができる 3)ロイの看護理論を自部署に浸透できる	ロイの看護理論を用いた事例検討	講義 GW	1回目:9/17(金) 13:30~16:45 2回目:11/12(金) 3回目:12/20(月) 14:00~16:45	聖マリア学院大学教授 日高艶子先生	セミナー2	10人	8時間45分
	事例検討 (オレム看護論)	レベルⅡ-2以上 看護過程に看護理論を活用できる 1)オレムの看護理論をもとに看護を展開し事例にまとめる 2)看護実践における論理的思考を育てる 3)オレムの看護理論を自部署に浸透できる	・オレム看護理論について ・オレムの看護理論を用いた事例検討	講義 GW	1回目:9/1(水) 13:00~16:30 2回目:11/4(木) 13:30~16:30 3回目:12/23(木) 9:00~12:00 4回目:R4/1/5(水) 13:30~16:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階多目的ホール	15人	12時間30分
	認知症看護研修	レベルⅡ-2以上 ・認知症に関する基本的知識を習得する ・入院中に必要な認知症看護に関する専門的技術を習得し、患者の尊厳を尊重したケアが提供される	・認知症の基礎知識 ・認知症患者に対するアセスメントとケア ・認知症患者に対するコミュニケーションと療養環境の調整	講義 GW	R4/2/21(月) 13:00~16:30	熊本大学病院認知症専門医 遊亀誠二先生 認知症看護認定看護師 市川麻紀	東病棟12階多目的ホール	21人	3時間30分
管理者研修	新副看護師長昇進者研修	2020年11月1日付副看護師長昇進者 2021年4月1日付副看護師長昇進者 1)社会情勢や当院の経営状況、看護管理に関して現状を把握したうえで、看護管理に役立てることができる 2)看護管理者として、副看護師長の役割を理解し組織運営ができる	・当院の経営状況・労務管理 ・看護管理 ・人材育成	講義	5/12(水) 9:00~10:50	山本治美看護部長 渡邊玲子看護師長 北島ちひろ副看護師長	東病棟12階 セミナー室2	9人	1時間50分
	管理研修 看護師長研修(2回シリーズ)	看護師長 ミッションとエンパワメントによる看護管理を学び、組織活性化に活かす 解なき新時代に耐える力を身に付け、看護実践に活かす	1)ミッションマネジメント 2)自己に課せられたミッションを自覚し、自部署から病院組織に至る組織活性化のアプローチ	講義 GW	1回目:7/27(火) 2回目:10/10(金) 13:30~16:30	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 准教授 武村雪絵先生	東病棟12階多目的ホール	34人	6時間
	副看護師長管理研修(2回コース)	副看護師長 概念的思考を身に付け、日常の看護管理に活かすことができる	・概念化思考 ・3つの思考法 見えないものを把握する ・多様化する価値観を認め問題可決する ・ロジックツリー	講義 GW	1回目:5/21(金) 2回目:12/16(木) 午前9:00~12:00 午後13:30~16:30	株式会社サフィール代表取締役 看護管理総合教育研究センター代表 河野秀一先生	東病棟12階 多目的ホール	1回目 午前35人 午後32人 2回目 午前34人 午後31人	6時間
指導者研修	基本的日常生活援助技術指導者研修	2022年度実地指導者(プリセプター)で研修未受講者および新副看護師長 基本的日常生活援助技術を根拠に基づいて指導する方法が習得できる	日常生活援助技術の評価シナリオに基づいて演習 (臥床患者の排泄・清潔・更衣・体位変換技術)	演習 体験学習	R4/3/10(木) 9:55~11:45 13:00~16:45 R4/3/11(金) 8:00~11:45 13:00~14:50	副看護師長 教育委員	中央診療棟7階総合臨床研修センター	実地指導者41人 副看護師長27人	1時間50分

2021年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
指導者研修 安全な注射・与薬プロセス指導者研修	2022年度実地指導者(プリセプター)で研修未受講者および新副看護師長	指導者が安全な注射与薬方法および輸液関連ポンプ使用の指導方法を理解し、根拠に基づいた指導ができる。	注射与薬プロセスと輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法マニュアルに基づいた指導と評価の演習	演習	R4/3/10(木) 9:55~11:45 13:00~16:45 R4/3/11(金) 8:00~11:45 13:00~14:50	副看護師長 安全対策委員会	部署	実地指導者41人 副看護師長26人	1時間50分	
全職員対象	看護倫理部署別事例検討会	毎回指定された研修参加部署の看護職員	事例を通して看護倫理について学び、倫理観を養い実践に活かすことができる	事例検討	GW 9/13(月) 10/11(月) 11/15(月) 12/13(月) 17:15~18:15	院内専門看護師	東病棟12階多目的ホール	9/13 32人 10/11 37人 11/15 47人 12/13 41人	1時間	
	重症度、医療・看護必要度研修	全看護職員	重症度、医療・看護必要度とは何かを正しく理解し、適切な評価ができる	動画視聴 確認テスト	7月26日(月)~ 9月10日(金)	業務委員会	各部署	793人(看護師数841人 免除者数25人 未受講者1人)	1時間	
	ロイ適応看護理論研修	全看護職員	ロイ適応看護理論を理解できる	ロイ適応看護理論の概念の基本について	講義	1回目:7/30(金) 2回目:8/6(金) 17:30~19:00	聖マリア学院大学教授 日高艶子先生	東病棟12階多目的ホール セミナー室2	1回目 55人 2回目 48人	1時間30分
	オレム看護論研修	全看護職員	オレム看護論を理解できる	オレムのセルフケア理論の概要について	講義	5/10(月) 17:30~19:00	四天王寺大学看護学部 看護実践開発研究センター 教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階多目的ホール セミナー室2	67人	1時間30分
看護補助者研修	看護補助者	1)看護補助者が医療制度の概要及び病院の組織を理解できる 2)看護補助者が医療チームおよび看護チームの一員として、看護補助者の役割を自覚し重要な役割を分担していることを認識できる 3)業務実施上必要な安全配慮を理解できる 4)看護師と協働することの重要性や方法について理解できる	急性期看護補助体制加算のための必須項目に加え、看護師と看護補助者の協働について行った。	講義	7月20日(火) 7月26日(月) 7月28日(水) 7月29日(木)	業務委員会	各部署	病院雇用看護補助者 35人 (学生アルバイト スエイド 13人を含む)、派遣 ナースエイド73人の合 108人	50分	

2021年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
講演会・発表会・報告会	講演会 I 看護部長講話	看護部職員	看護部の理念、目標を共通理解し、看護部職員が目標に向かって行動できる	看護部の理念、方針、2021年度の目標、教育方針	講演	4/13(火) 17:30～18:30	山本治美 看護部長	東病棟12階多目的ホール セミナー室2 医学総合研究棟3階講習室	252人 (うち新規採用者58人)	1時間
	第19回 業務改善報告会	個人・部署・ 委員会等	他部署の発表を参考として業務改善や看護実践に活かす	部署の業務改善実践報告 1)安全・安心な看護を実践するためのPNSコミュニケーション力向上への取り組み(西病棟6階) 2)木曜日のT-TIME(teaching-time)～教養を身につけるための取り組み～(西病棟11階) 3)安全委員の取り組み～インシデント事例からの学びを活かすための取り組み～(東病棟10階) 4)前向きな共通病床受入に向けた東病棟8階の取り組み(東病棟8階) 5)超過勤務削減に向けた取り組み～PNSやタスクシフトを通して～(東病棟6階)	動画視聴	12月1日(水)～ 12月18日(土)	業務委員会	各部署	研修希望者	35分
	活動報告会	看護部職員	他部署及び各委員会での取り組みを参考に自部署に応用できる	各部署及び各委員会、ワーキンググループの活動報告	報告会	3/2(水) 17:30～19:00	教育委員会	東病棟12階多目的ホール セミナー室2 Zoomによる配信	90人 (会場45人、オンライン45人)	1時間30分

2021年度 看護部 院内教育計画表

	研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
自主研修	精神看護	全職員	事例提供ができ、精神看護を深め問題解決ができる	部署からの事例を検討する	質疑応答	(1回目)11/4(木) (2回目) 1/5(水) (3回目) 2/17(木) 17:30～18:15	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	1・2回目 東病棟12階多目的ホール 3回目 東病棟12階セミナー室2	(1回目) 28人 (2回目) 27人 (3回目) 25人	45分
認定看護師主催自主研修	看護管理カフェ	次世代看護管理者	看護管理について学ぶ	日々、現場で発生している事象を看護管理の視点で学ぶ	講義	(1回目) 10/22(金) (2回目) 11/26(金) (3回目) 12/23(木) (4回目) 1/28(金) →中止 (5回目) 2/25(金) (6回目) 3/25(金) 17:30～18:30	今村かおる認定看護管理者 本田万里子認定看護管理者	東病棟12階セミナー室3	7人	5時間
	糖尿病看護	ラダーⅡ-1以上で糖尿病患者に関わっている方	・糖尿病患者のセルフケア行動に影響する心理・社会的要因について学ぶ ・糖尿病患者の行動変化を促進するための援助やコミュニケーションについて理解できる	・患者さんのセルフケアを困難にする背景及び血糖変動の考え方 ・患者さんのやる気を引き出すコミュニケーション方法	講義 GW	(1回目) 2/8(火) (2回目) 3/1(火) 17:30～18:45	藤本美枝糖尿病看護認定看護師	東病棟12階セミナー室2	1回目 12人 2回目 11人	2時間30分
	不妊症看護	院内看護師	がん患者の妊娠性温存について知識を深め、看護に活かす	・がん生殖医療-Oncofertilityとは ・がん生殖医療における妊娠性温存療法の実際 ・熊本大学病院におけるがん生殖医療の取り組み	講義	3/17(木) 17:15～18:30	本田万里子不妊症看護認定看護師	東病棟12階セミナー室2	21人	1時間15分

2021年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
I V 研 修	IVナース研修 (筆記試験)		本院の静脈注射実施基準と法的責任、解剖・生理、薬理、リスクマネジメント(安全・感染・緊急時の看護)のDVDを自己学習。 筆記試験	筆記試験 35分	(1回目) 6/11(金) 16:00~16:35 (2回目) 9/24(金) 16:00~16:35 (3回目) 11/12(金) 16:00~16:35 (4回目) 1/28(金) 16:00~16:35	業務委員会	東病棟12階 多目的ホール	(1回目) 31人 (2回目) 11人 (3回目) 8人 (4回目) 3人	35分
	IVナースインストラクター 研修 (筆記試験)	副看護師長または、看護師長が推薦する看護師で各部署から1~2名	看護師・助産師が本院の実施基準に沿って静脈注射を実施できるように指導できる 看護師・助産師が本院の実施基準に沿って静脈注射を実施できるように指導できる 看護師・助産師が本院の実施基準に沿って静脈注射を実施できるように指導できる	当該年度のIVナース講義資料、DVDを自己学習。筆記試験内容は、注射与薬プロセスのマニュアル(第9版)指導者用に沿った事例記述を含む。	筆記試験 70分 技術評価 約60分	筆記試験 (1回目) 7/8(木) 8:20~9:40 (2回目) 12/10(金) 8:20~9:40 技術評価 (1回目) 7/9(金) 10:00~16:45 (2回目) 12/17(金) 10:00~16:45	業務委員会	東病棟12階 多目的ホール 東病棟12階多目的 ホール、セミナー室 2・3	筆記試験 (1回目) 29人 (2回目) 16人 技術評価 (1回目) 15人 (2回目) 11人

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央検査部】

研修名	期間(令和3年4月～令和4年3月)	実施回数	参加人数	備考
新規採用者オリエンテーション	コロナ感染対策のため中止	—	2名	
新規採用者新入職者研修	4月1日	2	3名	
システムズカスタマートレーニング研修	5月18日	1	3名	
内部監査養成セミナー	コロナ感染対策のため中止	—	40名予定	
患者急変時トレーニング研修	3月18日	1	7名	
令和3年度新規採用職員等心肺蘇生法講習会(コメディカルコース)	7月20日	1	5名	
ISO集合教育	8月2日	1	48名	
時間外緊急検査に関する定期研修(血液)	8月2日～8月21日	1	31名	
日臨技九州支部卒後教育研修会 第13回生物化学分析部門研修会	8月22日	1	2名	
第8回熊本県精度保証研修会2021	10月3日	1	3名	
法的脳死判定トレーニング	10月15日	1	5名	
第1回医療技術部研修会	10月27日	1	23名	
第2回医療技術部研修会	12月14日	1	17名	
第3回医療技術部研修会	3月1日	1	26名	
熊本県臨床検査精度管理調査報告会	2月6日	1	2名	
SEKISUI生科学セミナー 検査業務において遭遇する可能性のあるピットフォール	2月17日	1	5名	
SEKISUI基礎セミナー 凝固検査の異常値とその対応法を整理する～凝固波形解析はなぜ有	3月3日	1	6名	
国立大学病院臨床検査技師会九州ブロック研修会	3月11日	1	37名	
令和3年度新規採用職員等心肺蘇生法講習会(コメディカルコース)	7月20日	1	5名	
時間外緊急検査に関する定期研修(生化学・免疫)	9月2日～9月21日	2	31名	
時間外緊急検査に関する定期研修(輸血)	8月30日	1	25名	
時間外緊急検査に関する定期研修(微生物)	9月8日	1	35名	
外部精度管理調査報告会	令和3年2月8日	1	2名	
臨床検査セミナー	コロナ感染対策のため中止	—	50名予定	
危機管理訓練	12月23日	1	45名	

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【ME機器センター】

研 修 名	期 間	実施回数	参加人員	備 考
ダヴィンチXiについて	令和3年9月27日(火) ～令和3年10月29日(金)	4回	16名	医療技術職員16名
AEDについて	令和3年11月30日(火)	1回	12名	医療技術職員12名
人工呼吸器について	令和4年3月12日(土)	1回	8名	医療技術職員8名

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央放射線部】

研修名	期間	実施回数	参加人員	備考
救急医療に関する研修(実技)	令和3年8月6日(金)	1回	技師3名、看護師14名、消化器内科医師4名、内視鏡検査技師1名	透視室での患者急変時シミュレーション訓練
救急医療に関する研修(実技)	令和3年11月10日(水)	1回	技師12名、看護師4名、小児科・放射線科医師10名	MRI患者急変時対応シミュレーション訓練
救急医療に関する研修(実技)	令和3年12月13日(金)	1回	技師10名、看護師12名、放射線科医師7名	造影CT患者急変時シミュレーション訓練
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年4月23日	1回	技師7名	日本放射線技術学会第77回日本放射線技術学会総会学術大会参加報告会 R3.4.15-18開催
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年10月25日	1回	技師7名	第49回日本放射線技術学会秋季学術大会の参加報告会 R3.10.15-17開催
高精度放射線治療に関する研修(実技)	令和3年11月17日	1回	技師8名	第34回日本放射線腫瘍学会学術大会の参加報告会 R3.11.12-14開催
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年11月24日	1回	技師7名	第19回熊本放射線物理・技術研究会参加報告 R3.11.20開催
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年11月25日	1回	医師3名、技師7名	RALS装置安全使用に関する研修会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年12月15日	1回	技師7名	第16回九州放射線医療技術学術大会の参加および報告会 R3.12.11-12開催
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和4年2月8日	1回	技師9名	第20回九州放射線治療システム研究会の参加報告 R4.2.5開催
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和4年2月16日	1回	技師7名	第15回南九州地域放射線治療技術合同研究会の参加および報告会 R4.2.12開催
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和4年3月15日	1回	技師4名	RALS用Ir線源交換時安全取り扱い研修会

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 馬場 秀夫
管理担当者氏名	各診療科長、中央診療施設等の長、医療情報経営企画部長、薬剤部長、看護部長、医療技術部長、栄養管理部長、医療の質・安全管理部長、各課長

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	中央手術部	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	中央検査部	
		エックス線写真	中央放射線部	
		紹介状	各診療科	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	病院総務課	
		閲覧実績	病院総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

診療に関する諸記録は、平成22年9月20日以前は紙媒体を原本とし、患者ID番号をもとに患者毎に整備し、10年間保管・管理（平成30年度から20年間に変更）している。平成22年9月20日以降は、電子情報を原則とし、電子保存している。なお、紙媒体の診療録は院外への持ち出しを禁止している。また、診療、教育・研究の目的で電子カルテの情報が必要な場合は、規則に基づき利用申請をおこない、承認されればデータを利用できる仕組みがある。（特定の端末で許可されたUSBでなければ情報を取り出す事ができない）

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	病院総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	病院総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	病院総務課、経理課、医事課、薬剤部
管理者が有する権限に関する状況	病院総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	病院事務部長 山下 恵太
閲覧担当者氏名	総務課長 中島 勇
閲覧の求めに応じる場所	管理棟3階 第2会議室
閲覧の手続の概要 病院事務部(総務課総務担当)へ閲覧の要求を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <p>熊本大学病院は、適切な安全安心で質の高い医療サービスを患者及びその家族に提供するために、医療事故、医薬品管理及び医療機器管理等を踏まえた医療に係る安全管理を目指す。</p> <p>また、「人間はエラーを犯す」ということを前提に、従業者一人一人が医療安全管理に対する高い意識を持ち、関係する各部署及び各委員会等が連携を図り、本院における医療安全管理を推進する。</p> 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 開催状況：年14回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理に係る基本方針に関すること (2) 医療安全管理のための具体的措置に関すること (3) 医療安全に係る従業者の教育及び研修に関すること (4) 本院において重大な問題その他医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること (5) 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関すること (6) 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること (7) 医療事故発生時の患者や家族への説明及び公表に関すること (8) その他医療に係る安全管理に関し必要な事項 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <p>新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員を対象に年2回実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な伝達事項（例：高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の導入について）や、インシデントに関連したテーマの講演会（例：採血や血管確保時の神経損傷等）を実施している。</p> 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>インシデントが発生した場合、各部署からのインシデントレポートにより医療の質・安全管理部へ報告がある。なお、重大なインシデントについては部署リスクマネージャーから即時にゼネラルリスクマネージャーへ連絡があり、ICに同席するなど初期対応から医療の質・安全管理部が介入して対応している。</p> <p>インシデントレポートを基に要因分析と再発防止策の検討を医療の質・安全管理部と医療安全管理委員会で実施している。検討した再発防止策は、リスクマネージャー連絡会議において警鐘事例とともに各部署の</p> 	

リスクマネージャーに通達し、その後リスクマネージャーから全職員へ通達される。

また、部署リスクマネージャーによる自部署チェック、他部署間の相互チェックや、医療の質・安全管理部運営委員会委員による院内巡視、医療安全管理者によるラウンドなど、定期的な巡回や監査も実施している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策委員会，その他の医療機関内の組織に関する基本事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 抗微生物薬適正使用に関する基本方針 6. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染防止対策に関する事項の審議 2. 院内感染防止対策研修会の企画・審議 3. 感染予防に関する事業の企画・実施 4. MRSA等の薬剤耐性菌の分離状況についての報告 5. 抗MRSA薬適正使用報告 6. 感染制御チーム（ICT）からの報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (医療系)『新型コロナウイルス感染症について／当院の新型コロナウイルス検査運用について ／バンコマイシンのTDMが変わります。～2点採血による方法～』 (事務系)『正しく恐れよう 新型コロナウイルス感染症』 2. (医療系)『手指衛生の再確認／キノロン系薬を適切に使っていくために ～大腸菌の耐性化が 進行しています～』 (事務系)『令和三年コソコソ話 新型コロナウイルス～変異株・ワクチン～』 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等の多職種からなるICTを組織し、病原感染対策マニュアルの制定、院内感染発生時の対応、院内ラウンド、抗菌薬適正使用の推進、病院感染防止の教育・啓発、職業感染防止対策などの活動を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年6回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【院内研修】</p> <p>(1) 令和3年4月1日・「2021年度度新規採用職員研修」 「薬剤部の業務内容と院内における医薬品の取り扱いについて」(資料配布、必須項目はWEB研修) (講師；副薬剤部長、対象；新採用職員)</p> <p>(2) 令和3年6月21日～7月20日・「令和3年度第1回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・194名 (講師；薬剤部長・副薬剤部長・薬剤師、対象；新採用医師)</p> <p>(3) 令和3年6月3日・「2021年度新採用看護師IV基礎研修」 「看護師に必要な薬理作用の基礎知識」・53名 (講師；薬剤部長、対象；新採用看護師)</p> <p>(4) 令和3年5月11・12・13・17・18日・「看護師特定行為研修・臨床薬理学演習」・7名 (講師；薬剤部長、対象；看護師)</p> <p>(5) 令和3年7月19日～8月2日・「2021年度前期院内感染対策研修会及び医療安全のための講演会(医療系)」 「医薬品適用外使用について」「バンコマイシンのTDMが変わります。～2点採血による方法～」・2263名 (講師；薬剤師、対象；全職員)</p> <p>(6) 令和3年10月25日～11月26日・「令和3年度第2回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・37名 (講師；薬剤部長・副薬剤部長・薬剤師、対象；新採用医師)</p> <p>【病棟別等の対象限定での研修】</p> <p>(1) 令和3年4月8日・「化学療法レジメン(小児科でよく使われる抗がん剤)について」・14名(対象：西病棟8階看護師)</p> <p>(2) 令和3年6月3日・「麻薬製剤の管理について」・11名(対象：HCU看護師)</p> <p>(3) 令和3年7月14日・「インスリンの薬理作用、取り扱い注意事項とカリウム製剤投与時の注意事項について」・13名(対象：西病棟11階看護師)</p> <p>(4) 令和3年8月2日・「カテコラミンについて」・9名(対象：東病棟6階看護師)</p> <p>(5) 令和3年8月4日・「カテコラミンと注射薬の配合変化について」・11名(対象：東病棟5階看護師)</p> <p>(6) 令和3年8月24日・「新型コロナウイルス感染症の治療薬について」・8名(対象：東病棟8階看護師)</p> <p>(7) 令和3年8月30日・「手術部で使用される薬剤について」「手術室におけるアナフィラキシーショック」・30名(対象：中央手術部看護師)</p> <p>(8) 令和3年11月24・30日、12月6・28日・「リツキサンについて」・5名(対象：西病棟8階看護師)</p> <p>(9) 令和4年3月24日・「向精神薬・麻薬取り扱いについて」・7名(対象：西病棟2階看護師)</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全管理責任者に薬剤部長を任命(平成19年4月)し、院内に医薬品安全管理専門委員会を設置した。『医薬品の安全使用のための業務手順書』(以下、業務手順書)は平成19年7月に作成した。令和4年3月に、医薬品安全管理専門委員会を開催し、業務手順書を改訂した(第17版)。今回の改訂内容については以下の通りである。</p> <p>(1) 「退院や治療方針の変更等によって使用中止となった医薬品の取り扱い」について第12章として挿入・追記。</p>	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :
 - ① 感染性大動脈瘤に対するリファンピシン浸漬人工血管の使用
 - ② 自己免疫性肺胞蛋白症へのGM-CSF吸入療法
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - 1) 医薬品安全管理責任者は、院内各部署における常備医薬品に関する管理状況、内用剤・外用剤・注射剤の調剤時における疑義照会内容、外来化学療法室における疑義照会事例および病棟薬剤業務に関連した疑義照会事例等について、情報の収集・確認に努め、医療安全管理委員会において、その状況等を報告している。院内で発生した薬剤業務関連のインシデント事例について薬剤師への情報共有・周知を図り、再発防止のための注意喚起に努めている。
 - 2) 院内各端末からは、病院情報管理システムを用いて、最新(毎月1回更新)の添付文書情報を閲覧可能としており、また、新規採用医薬品については、毎月発行の院内情報誌「熊大病院・医薬品情報」にて概要と注意事項等の情報を発信すると共に、病院情報システム内の院内専用電子掲示板“医薬品情報”にも掲示している。
 - 3) 調剤(注射剤調剤を含む)に際しては、質疑応答内容を記録し、処方鑑査、疑義照会および医薬品安全使用の目的に活用している。がん化学療法においては、処方ミスを回避し安全性を確保するため、注射用抗がん剤に対する処方には専用のレジメンオーダーリングシステムのみでの運用に限定している。注射用抗がん剤の無菌調製は休日も含め全て薬剤部で担当している。
 - 4) 治療域の狭い薬物や個体差の大きい薬物等については、薬物血中濃度モニタリング(TDM)による投与設計・管理を推奨し、特に抗MRSA薬については、毎月度開催される感染対策委員会においてTDM実施状況を報告し、TDMに基づいた適正投与を行うように医師に対し周知徹底を図っている。
 - 5) 未承認医薬品については、院内では「本院で使用したことのない医薬品であって、“医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律”における承認又は認証を受けていないもの」と定義した上で、薬剤部で調剤(分包依頼、剤形変更などの特殊製剤依頼等も含む)する際には、未承認医薬品の使用が倫理委員会(人を対象とする医学系研究臨床研究部門倫理委員会、臨床倫理委員会)の承認を得ていることを書面にて確認している。医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師(担当薬剤師)は未承認医薬品の使用状況及び規程遵守状況等を月1回定期的に確認し、医薬品安全管理責任者へ報告している。報告された適応外使用をとりまとめ、月に一度、薬剤部長、副薬剤部長、医薬品情報室長、薬剤師GRM、医療安全支援室長等をメンバーとする「医薬品の適応外使用評価部会」を薬剤部内で開催している。リスク分類は、日本病院薬剤師会作成の「ハイリスク薬に関する業務ガイドライン Ver.2.2」を参考に適応外使用によるリスクとベネフィットを評価検討し、診療科に対して適応外使用の理由書提出または倫理委員会への申請依頼を行っている。
 - 6) 令和3(2021)年度の新規取組み事項
 - (1)2021年5月13日に、院内医薬品情報誌にて「重症筋無力症患者注意薬について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
 - (2)2021年5月28日に、持参薬⇒院内採用薬への切替時に使用する電子カルテの処方Rpコメント表記方法を処方オーダー入力方法に準じ、1日量表記⇒1回量・1日量併記へ変更した。
 - (3)2021年6月付で発出された安全性速報「ジョイクル®関節注30mgによるショック、アナフィラキシーについて」を受け、院内関係者への情報伝達・周知を紙媒体ならびに学内メールにて行い、使用患者等の抽出・有害事象発現状況などの確認を行った。
 - (4)2021年6月10日に、院内医薬品情報誌にて「高リン血症・高カリウム血症治療薬の採用薬一覧」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
 - (5)2021年7月10日に、院内医薬品情報誌にて「薬機法改正による添付文書の電子化について」を通知し情報共有を行った。
 - (6)オキシコドン徐放錠を処方する際に3文字検索で「オキシ」と入力すると選択薬剤の一番上に「オキシコドン錠」が表示されていたことにより、間違えて処方した事例の報告を受け、オキシコドン錠は速放製剤のため名称を「速放オキシコドン錠」と変更し、表示順番も変更した。(2021年8月リリース済)また、過去に遡って誤処方がないか確認したところ、2名がオキシコドン錠(速放製

剤)をベースとして定期服用されていたため処方医へ確認し、徐放製剤に変更した。院内で注意喚起のため各診療科への通知、リスクマネージャー連絡会議にて周知を行った。

- (7) 病棟で毒薬を廃棄した事例があり、毒薬や向精神薬については薬袋に管理薬であることが看護スタッフにも分かるように薬袋表示を変更した。(2021年8月リリース済)
- (8) 2021年9月10日に、院内医薬品情報誌にて「徐放性製剤について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (9) 2021年9月より、外来化学療法に特化した「【外来化学療法用】施設間患者服薬状況等連絡書」を作成し、保険薬局との情報共有効率化を図った。
- (10) 2021年10月に、「内服薬の分割・粉碎・簡易懸濁に関する適否情報一覧」を第3版に改訂し、各病棟・外来等への配布を行った。
- (11) 2021年10月14日に、院内医薬品情報誌にて「静注用人免疫グロブリン製剤について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (12) 2021年12月1日に、「注射薬監査マニュアルWEB版」を導入し、調剤室・注射剤調剤室・医薬品情報室において、注射剤組成・配合変化情報などを随時検索可能とした。
- (13) 2021年12月9日に、院内医薬品情報誌にて「ヘルペスウイルス治療薬について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (14) 令和3年9月、院内フォーミュラリー導入に向け、薬事委員会下部組織「薬剤適正使用指針策定WG」を発足、2022年1月に、「インフルエンザ治療薬」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価した院内標準的薬物治療指針(院内フォーミュラリー)を策定し、紙媒体およびガールーン掲載による推奨薬・フローチャートの周知、処方オーダー時のポップアップ改修等などの対応を行った。
- (15) 2022年1月に、「毒薬・麻薬・向精神薬(1種 2種)リスト」ならびに「ハイリスク薬リスト」の改訂を行い、紙媒体およびガールーン掲載により周知を行った。
- (16) 2022年1月11日付で、グロブリン製剤は添付文書で静脈注射については「緩徐に行うこと」とされており、「静脈注射(IV)」が選択されるとインシデントに繋がる可能性があることから、グロブリン製剤の用法から「静脈注射(IV)」を削除し、「緩徐に静注」のみを選択可能とした。
- (17) 2022年3月より、吸入指導に特化した「【吸入指導用】施設間患者服薬状況等連絡書」ならびに「【吸入指導用】服薬サポート依頼書」を作成し、保険薬局との情報共有効率化を図った。
- (18) 2022年3月10日に、院内医薬品情報誌にて「酸化マグネシウム製剤簡易懸濁時の配合変化について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (19) 各種業務マニュアルの改訂ならびに新規作成を行った。【抗悪性腫瘍薬無菌調製実施要綱改訂(第6版へ)、抗がん薬調製マニュアル改訂(第6版へ)、TPN実施要綱改訂(第8版へ)、TPN調製業務マニュアル改訂(第6版へ)、院内製剤業務手順書改訂(第6版へ)、院内製剤調製マニュアル改訂(第5版へ)、外来化学療法センター薬剤師業務マニュアル改訂(第2版へ)、治験薬管理室業務マニュアル(第1版 2022/3/31)作成、治験薬管理室業務習得用チェックリスト(Ver.1 2022/3/23)作成】

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無																																																																
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年17回																																																																
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="0"> <tr> <td>令和3年</td> <td>4月</td> <td>閉鎖式保育器の基礎と使用方法</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5月</td> <td>除細動器の原理と日常点検</td> <td>97名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月</td> <td>補助循環装置（IABP, PCPS）</td> <td>89名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7月</td> <td>人工呼吸器</td> <td>94名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8月</td> <td>人工心肺の基礎</td> <td>55名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月</td> <td>血液浄化装置</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月</td> <td>閉鎖式保育器の基礎と使用方法</td> <td>37名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月</td> <td>除細動器</td> <td>101名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月</td> <td>RALS安全講習会</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12月</td> <td>補助循環装置とその管理</td> <td>56名</td> </tr> <tr> <td>令和4年</td> <td>1月</td> <td>人工呼吸器</td> <td>53名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2月</td> <td>人工心肺装置</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3月</td> <td>血液浄化装置</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3月</td> <td>RALS安全講習会</td> <td>4名</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">医療機器導入時研修 53回 合計参加者数：398名</p>		令和3年	4月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	45名		4月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名		5月	除細動器の原理と日常点検	97名		6月	補助循環装置（IABP, PCPS）	89名		7月	人工呼吸器	94名		8月	人工心肺の基礎	55名		9月	血液浄化装置	18名		10月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	37名		10月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名		11月	除細動器	101名		11月	RALS安全講習会	7名		12月	補助循環装置とその管理	56名	令和4年	1月	人工呼吸器	53名		2月	人工心肺装置	45名		3月	血液浄化装置	6名		3月	RALS安全講習会	4名
令和3年	4月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	45名																																																														
	4月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名																																																														
	5月	除細動器の原理と日常点検	97名																																																														
	6月	補助循環装置（IABP, PCPS）	89名																																																														
	7月	人工呼吸器	94名																																																														
	8月	人工心肺の基礎	55名																																																														
	9月	血液浄化装置	18名																																																														
	10月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	37名																																																														
	10月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名																																																														
	11月	除細動器	101名																																																														
	11月	RALS安全講習会	7名																																																														
	12月	補助循環装置とその管理	56名																																																														
令和4年	1月	人工呼吸器	53名																																																														
	2月	人工心肺装置	45名																																																														
	3月	血液浄化装置	6名																																																														
	3月	RALS安全講習会	4名																																																														
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																																																																	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>医療機器保守・点検業務手順書に則り、人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、直線加速器、RALS、輸液ポンプ、シリンジポンプ、小型シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、低圧持続吸引器、空気除菌・脱臭装置、AED、麻酔器は保守点検に関する計画を策定し、ME機器センター技士ならびに製造販売業者が保守点検を実施している。保守点検後は、その状況を月報として医療機器安全管理責任者に報告し、最終的には病院長が委員長となっている医療安全管理委員会に提出されている。上記の医療機器は、始業点検・終業点検、使用中点検についても医療機器保守・点検業務手順書に則り実施している。なお、医療機器不具合時の対応法について院内ネットワークで閲覧できる状態であり、不具合機器は、医療機器修理依頼書とともにME機器センターに持参してもらっている。</p>																																																																	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																																																																	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療安全情報で医療機器の不具合等に関する事例が報告された際、医療の質・安全管理部と連携を図り対象となる医療機器を扱う部署やスタッフへの周知を行う。また、医療機器の安全使用のための研修会の中でも医療事故に関する説明を行うこともある。WEBによる研修を行うことによって、より多くのスタッフが受講できるようになった。医療機器の添付文書はME機器センターで管理するとともに、院内ネットワーク上で何時でも閲覧できる。ME機器センター職員は、WEBによるセミナーや研修会を受講することにより、より充実した医療機器の保守管理・操作の業務に従事している。</p>																																																																	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(所属：薬剤部，職種 調剤室長) (所属：薬剤部，職種 麻薬室長)	
(所属：薬剤部，職種 注射剤調剤室長) (所属：薬剤部，職種 製剤室長)	
(所属：薬剤部，職種 病棟薬剤業務支援室長) (所属：薬剤部，職種 医薬品情報室長)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：監査担当医師と診療情報管理士が毎月実施する診療録記載監査の中から、患者への説明記録及び同意取得に関する監査の結果を院内諸会議にて報告している。またリスクマネージャー会議においても同結果をもとに、部署リスクマネージャー等を通じて規定の遵守について指導を行っている。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施する診療録の監査実施と集計結果報告 <ul style="list-style-type: none"> 実施者：監査担当医師 178 名、診療情報管理士 9 名 量的点検：全入院診療録 医学管理料等及び質的点検：入院診療録 約 380 例／月平均、外来診療録 300 例／月 ・監査の集計結果について院内諸会議及び診療科（監査担当医師）へ報告、院内グループウェア内フォルダに掲載し公表する。監査結果の不備について主治医宛に症例別報告書に通知し、必要に応じ直接医師へ連絡する。 ・入職時のオリエンテーションにて「診療録等記載マニュアル」（本院作成）をもとに、診療録の記載の原則及び運用上のルール等を説明する。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（5）名、専任（1）名、兼任（18）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 	

うち看護師：専従（３）名、専任（０）名、兼任（４）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) 医療の安全性の確保及び向上に係る方策の立案、推進及び検証に関すること
- (2) 医療安全管理に係る教育・研修の実施に関すること
- (3) 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び従業者の医療安全に対する意識向上の状況確認に関すること
- (4) 事故その他医療の質・安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他診療に関する記録の確認、当該事象に関わる患者又はその家族への説明、当該事象発生の原因究明その他の対応状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導に関すること
- (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等に関すること
- (6) 未承認新規医薬品等の提供の適否等に関すること
- (7) 医療安全管理に係る連絡調整業務に関すること
- (8) 医療安全管理マニュアルに関すること
- (9) 熊本大学病院医療安全管理委員会に係る事務に関すること
- (10) 職員のメンタルヘルス支援に関すること
- (11) 医療事故及び医療紛争の当事者及びその家族の心理的支援に関すること
- (12) 医療の質・安全管理部長が必要と判断する患者及びその家族への心理的支援に関すること（前号に規定する業務を除く。）
- (13) その他医療の質及び医療安全管理に関し必要な事項

・医療安全に資する診療内容についてのモニタリングの具体例：

- ・手術室、内視鏡室、造影室、透視室のタイムアウト巡回、病棟の人工呼吸器巡回を GRM で実施した。結果はすべて部署にフィードバックした。
- ・画像診断所見と病理診断所見確認システムを導入しており、各診療科に結果をフィードバックした。また、令和元年度から、画像診断所見における、依頼内容以外の重要所見について診療の進捗を確認し主治医へフィードバックしている。重要なインシデントは発生していない。

・従事者の医療安全の認識についてのモニタリングの具体例：

- 「医療安全のための講演会」の受講状況について随時把握し、未受講者についてはeラーニングを受講するよう指導している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（8件）、及び許可件数（8件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、高難度新規医療技術の提供の適否等について意見を求めること
 - (2) 前号の意見の求めに応じ、高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を高難度新規医療技術提供審査結果通知書により通知すること
 - (3) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供に関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容の確認すること
 - (4) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供について、従業者の遵守状況の確認を行うこと
 - (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の従業者の遵守状況の確認をしたときに、その内容について病院長に報告すること
 - (6) 高難度新規医療技術評価委員会に係る事務を行うこと
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（3件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対して、未承認新規医薬品等の使用の適否等について意見を求めること

と

(2) 前号の意見の求めに応じ、未承認新規医薬品等評価委員会が述べた意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を未承認新規医薬品等使用審査結果通知書により通知すること

(3) 未承認新規医薬品等の適正な手続に基づく使用に関し、定期的に、及び使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること

(4) 未承認新規医薬品等の適正な手続きに基づく使用について、従業者の遵守状況の確認を行うこと

(5) 未承認新規医薬品等の適否等について決定したとき及び前号の従業者の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること

(6) 委員会に係る事務を行うこと

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 230 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 158 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 報告の実施状況（発生内容や頻度、その後の患者の転帰等）の確認と、確認結果の管理者への報告

2. 報告等の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：宮崎大学医学部附属病院) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：佐賀大学医学部附属病院) ・ 無)

・ 技術的助言の実施状況

技術的助言等はなかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者様やご家族からの医療の安全管理に係る相談等に対応する窓口として「患者相談室・医療安全相談室」を設置しており、直接の相談や電話による相談に対して適切に応じる体制を整えている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員を対象に年2回実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な伝達事項（例：高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の導入について）や、インシデントに関連したテーマの講演会（例：採血や血管確保時の神経損傷等）を実施している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

※いずれも、公益財団法人日本医療機能評価機構主催

管理者：令和3年度第3回特定機能病院管理者研修[初回] (R4. 2. 2) オンライン受講済

医療安全管理責任者：令和3年度第1回特定機能病院管理者研修[初回] (R3. 11. 10) オンライン受講済

医薬品安全管理責任者：令和3年度第6回特定機能病院管理者研修[継続] (R4. 2. 14) オンライン受講済

医療機器安全管理責任者：令和3年度第6回特定機能病院管理者研修[継続] (R4. 2. 14) オンライン受講済

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善

のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構による病院機能評価一般病院3（3rdG：Ver.2.0）の更新審査を令和元年8月に受審し、令和2年3月6日付で認定。

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

日本医療機能評価機構のホームページにて審査結果報告書を公表している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

審査の結果、課題として取り組むことを推奨された事項について、院内会議体等で共有するとともに定期的に各事項の進捗管理を行っている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準の主な内容 <p>医師免許を有し、医療法（昭和23年法律第205号）の規定に則った者であるとともに、人格が高潔で学識に優れ、次世代の医療に貢献すべく先端医療研究の推進、優れた医療人の育成および病院の管理運営に関し識見を有し、以下の点に合致する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療安全管理業務に対する知見・経験 病院の管理運営・経営に必要な能力 熊本大学病院に求められるミッションの遂行 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・無 ） 公表の方法 <p>国立大学法人熊本大学病院長候補者選考規則を熊本大学ホームページで公表。</p>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <p style="margin-left: 40px;">病院の管理運営・経営等に関する重要事項及び病院長候補適任者の選考に関する事項</p> ・ 審議の概要の従業者への周知状況 <p style="margin-left: 40px;">院内コミュニケーションシステム（ガルーン）により、資料・議事録を掲載し周知</p> ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 公表の方法 <p style="margin-left: 40px;">熊本大学規則集システムやガルーンに掲載し公表</p> ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> 無 ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
馬場 秀夫	○	医師	病院長、総合臨床研究部長
坂上 拓郎		医師	呼吸器内科長
田中 靖人		医師	副病院長、消化器内科長
松岡 雅雄		医師	副病院長、血液内科長、膠原病内科長、中央検査部長、輸血・細胞治療部長、感染免疫診療部長
向山 政志		医師	副病院長、腎臓内科長、腎・血液浄化療法センター長
荒木 栄一		医師	糖尿病・代謝・内分泌内科長、栄養管理部長
辻田 賢一		医師	副病院長、循環器内科長
植田 光晴		医師	脳神経内科長
松井 邦彦		医師	総合診療科長
福井 寿啓		医師	心臓血管外科長
鈴木 実		医師	呼吸器外科長

宮本 裕士		医師	消化器外科長
山本 豊		医師	乳腺・内分泌外科長
日比 泰造		医師	小児外科長、移植外科長
神波 大己		医師	泌尿器科長、中央手術部長
近藤 英治		医師	産科長、婦人科長
中村 公俊		医師	小児科長
宮本 健史		医師	副病院長、整形外科長、リハビリテーション部長
福島 聡		医師	皮膚科長、中央材料部長
増口 信一		医師	形成外科長
井上 俊洋		医師	眼科長
折田 頼尚		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
中山 秀樹		歯科医師	歯科口腔外科長
平井 俊範		医師	画像診断・治療科長、中央放射線部長
大屋 夏生		医師	放射線治療科長
竹林 実		医師	神経精神科長
武笠 晃丈		医師	脳神経外科長
平田 直之		医師	麻酔科長、集中治療部長
三上 芳喜		医師	病理部長
入江 弘基		医師	救急部長
中村 太志		医師	医療情報経営企画部長
齋藤 秀之		薬剤師	薬剤部長
笠岡 俊志		医師	災害医療教育研究センター長
野坂 生郷		医師	外来化学療法センター長
吉武 淳		医師	緩和ケアセンター長
山本 治美		看護師	副病院長、看護部長
横山 俊朗		臨床検査技師	医療技術部長
近本 亮		医師	副病院長、医療の質・安全管理部長
中田 浩智		医師	感染制御部長
山下 恵太		事務職員	副病院長、病院事務部長
松井 啓隆		医師	がんゲノムセンター長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

熊本大学規則集システムによる公表

- ・ 規程の主な内容

「熊本大学病院規則」、「熊本大学学則」

病院規則において、「特定機能病院の管理者として管理運営に関する権限に基づき、業務を総括し、所属職員を監督する。」と規定されている。また、病院長は、戦略、病院経営担当の副学長として任命されており、熊本大学学則の規定に基づき、学長を助け、命を受けて校務（病院経営等）をつかさどっており、開設者である学長から当該校務に係る権限を与えられている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

- ・ 副病院長：病院長の職務の一部を補佐
- ・ 病院長特別補佐：病院長が命ずる病院における特別な事項を担当し、病院長を補佐

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院長、副病院長及び病院長特別補佐の病院中枢の執行部が、病院運営の課題や将来の展望・方向性等を意見交換し共通理解を図ることを趣旨とした「病院運営カンファレンス」において、構成員は各担当分野について問題意識をもって同会議に臨んでいる。

また、新たなセンター等の組織の設置や中期目標・中期計画の推進等、病院運営における重要事項を検討するWGやPTの座長に副病院長を指名し、副病院長のマネジメント力のスキルアップを図っている。

さらに、新型コロナウイルス感染症に係る対応において、情報把握を行うとともに関連部署と連帯を強化して総合的かつ有効な対策を迅速に講ずるため、本部長（病院長）、副本部長（診療活動担当副院長）等から構成される「新型コロナウイルス対策本部」を設置し、本院における対応方針及び対策の意思決定や熊本県等関連機関との連携調整等を行っている。

本対応等を通して、対策本部構成員の危機管理マネジメント力のスキルアップが図られるとともに、対策本部の決定事項等発信体制の整備、強化により、病院一体となった危機管理意識の向上が図られている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>本院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じ確認を実施するとともに、必要に応じ医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を述べる。</p> <p>また、監査報告書を学長に提出するとともに、監査結果を公表する。</p>	
<p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>熊本大学ホームページによる公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
吉村 麻里子	佐賀大学医学部附属病院 医療安全管理室	○	医療安全管理に関する見識を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
森高 啓喜	森高・吉見法律事務所		法律に関する見識を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
馬見塚 まゆみ	がんサロンネットワーク		医療を受ける者 その他の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

熊本大学監事監査において、法令等に従い、業務の適正かつ効果的、効率的、経済的な運営を図ること及び会計経理の適正を確保するための監査を実施。

熊本大学内部監査において、業務の有効性及び効率性並びに業務処理の適法性について検証するとともに、リスク・マネジメント、内部統制及びガバナンス・プロセスの有効性について評価し、その結果に基づき是正又は改善のための助言、提言を行うための監査を実施。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)

・ 公表の方法

熊本大学ホームページによる公表

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>外部有識者を含めた7名の委員で構成する熊本大学病院アドバイザー会議を設置しており、令和4年1月20日に令和3年度の会議を開催した。 同会議において、新型コロナウイルス感染症への対応状況、地域医療連携体制強化の取組、医師の働き方改革に係る取組、教育・研究機能強化の取組、病院経営の課題と戦略等について意見交換が行われた。</p> 会議体の実施状況（年1回） 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）（年1回） 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） 公表の方法 <p>熊本大学ホームページによる公表</p> 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：熊本大学病院アドバイザー会議			
会議体の委員名簿（令和4年度の委員については、調整中のため、令和3年度の委員を記載）			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
宇佐川 毅	理事・副学長	○	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
甲斐 隆博	株式会社肥後銀行 代表取締役会長 熊本経済同友会代表幹事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
田嶋 徹	熊本県副知事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
村田 信一	熊本大学同窓会連合会会長 熊本大学武夫原会会長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
福島 絵美	フリーアナウンサー		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
水田 博志	熊本市民病院 熊本市病院事業 管理者		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
福田 稠	熊本県医師会会長 医療法人社団 愛育会 福田病院 理事長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 1件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">メール、院内コミュニケーションシステム (ガルーン掲示板) への掲示

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>本院ホームページ、熊大病院ニュース（年 2～3 回発行）、熊大病院概要（毎年度発行）等を活用し、本院の役割に関する情報を発信している。</p> <p>特に、新型コロナウイルス感染症に関する本院の地域における取組について、令和 3 年 10 月発行の熊大病院ニュースで特集を組むほか、地元メディアからのコロナ関連の取材依頼に積極的に応じ、熊本県で唯一の特定機能病院として、その果たすべき役割について地域に広く情報発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>当該科からのコンサルテーションシートに基づき、他科の診療科が必要に応じて診療・治療・検査等を連携して行う。</p>	